

静岡県御前崎市

文化財年報 XV

平成 30 年度



2020

御前崎市教育委員会

表紙写真

御前崎市指定天然記念物 イスノキ群生林

静岡県御前崎市

文化財年報 XV

平成 30 年度

2020

御前崎市教育委員会



写真1 市指定史跡「薩田ヶ谷横穴群」発掘調査完掘後の全景(平成13年度撮影)



写真2 教育委員会貸出民具を使用した御前崎小学校5年生の昔の農業体験風景



写真1 改修工事を実施した市指定有形文化財「旧妙音庵薬師堂(附:薬師三尊・十二神将)」看板

序 文

御前崎市は、広大な遠州灘を望む浜岡砂丘、数多くのウミガメが訪れる御前崎海岸、お茶の産地で有名な牧ノ原台地、白亜の灯台など、豊かな自然や風光明媚な環境に恵まれています。

また、縄文時代早期前半の異形局部磨製石器（トロトロ石器）が出土した西原遺跡をはじめ、戦国時代の城館にいたるまで 100 箇所以上様々な遺跡があります。さらに、古くからの信仰形態を残す桜ヶ池のお櫃納めなどの無形民俗文化財や庶民の厚い信仰によって永く守られてきた仏像や石仏などの有形文化財を各所に見ることができます。

文化財保護行政の役割は、このような先人達が守ってきた自然環境や歴史的文化遺産を保護・保存して後世に伝えていくとともに、より多くの方が当時の文化や歴史に触れ、その多様な価値により豊かな生活を享受できるよう、それらの公開や活用を図っていくことです。そこで平成 30 年度も下記のように文化財保護事業を行いました。つきましては、文化財の所有者や管理者、地域の方々をはじめとした市民の皆様の御理解、御協力に感謝し、今後もより一層の御支援をお願い申し上げます。

以下、平成 30 年度に実施した文化財保護事業について報告します。

- 埋蔵文化財試掘調査 2 件(朝比奈城山・南谷遺跡)
- 埋蔵文化財工事立会 1 件(朝比奈城山・南谷遺跡・中尾殿之谷遺跡)
- 出土遺物整理事業(南谷遺跡ほか)
- 国指定天然記念物「御前崎のウミガメ及びその産卵地」保護事業
- 県指定名勝「桜ヶ池」枯れた松伐採の現状変更
- 県指定天然記念物「比木賀茂神社社叢」の損傷及び維持の措置
- 県指定天然記念物「比木賀茂神社社叢」の樹幹崩壊危険樹および枯死樹等調査
- 市指定天然記念物「いちょうの木」製枝及び倒木回避の現状変更
- 萬葉の歌碑等誘導看板支柱及び解説看板の修繕工事
- 旧妙音庵薬師堂看板の修繕工事
- 市指定有形文化財「岩地正八幡神社本殿」での文化財防火訓練の開催(平成 31 年 1 月 19 日)
- 御前崎市文化財保護審議会視察研修の開催(長野県諏訪市の諏訪市博物館、諏訪大社など)
- 埋蔵文化財出張授業(浜岡東小学校 PTA 主催「東っ子まつり」)
- 市内イベントにおける原始体験学習ブースの開設(御前崎市大産業まつり)
- 御前崎文化財講座(朝比奈地区)の開催
- 歴史民俗資料等の利用・貸出し
- 御前崎のウミガメ産卵観察会の開催
- 御前崎のウミガメ放流観察会の開催

令和 2 年 3 月 31 日

御前崎市教育委員会教育長 河原崎 全

例 言

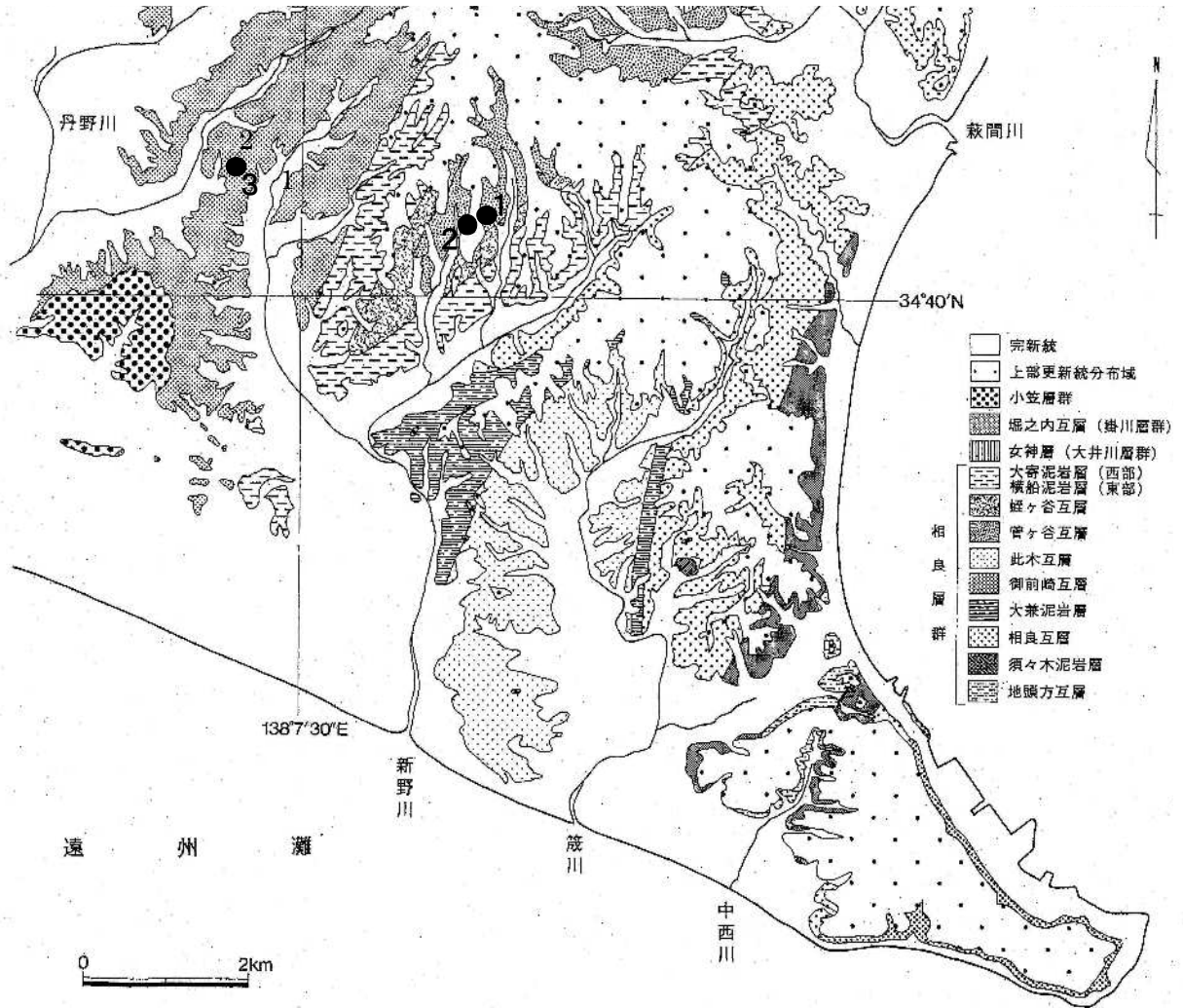
- 1 本書は、平成 30 年度において御前崎市教育委員会が実施した文化財保護事業についてまとめたものである。
- 2 文化財保護事業は、埋蔵文化財調査・文化財保護・管理・文化財活用啓発活動に区分した。
- 3 平成 30 年度に試掘調査を実施した 2 件の試掘調査の内、遺物が出土している南谷遺跡試掘調査報告書を本年報に掲載した。
- 4 南谷遺跡試掘調査の調査体制は、次のとおりである。
調査主体 御前崎市教育委員会
発掘調査員 村本 薫 発掘作業員 鈴木弘康 増田真理子 伊藤弘亮 松井佳穂 齊藤 剛
- 5 アカウミガメ保護活動の体制は、御前崎市教育委員会からウミガメ保護監視員を委嘱した。
ウミガメ保護監視員 高田 正義 (通算 22 年目)
大澤 茂美 (通算 18 年目)
良知 正美 (通算 12 年目)
鈴木 紀捷 (通算 9 年目)
澤部 春市 (通算 6 年目)
中田 豊 (通算 4 年目)
早山 彰夫 (通算 3 年目)
増田 均 (通算 2 年目)
- 6 本書の刊行に関する事務は、御前崎市教育委員会社会教育課が行った。
教 育 長 河原崎 全
教 育 部 長 長 尾 智 生
社会教育課長 鈴木 弘 康 (平成 31 年 3 月 31 日まで)
長 尾 詔 司 (平成 31 年 4 月 1 日から)
芸術文化係長 村 本 薫
芸術文化係 増 田 泰 司 (平成 31 年 3 月 31 日まで)
伊 藤 弘 亮 (平成 31 年 4 月 1 日から)
松 井 佳 穂
- 7 本書の執筆は文化財担当が分担して行い、編集を村本が行った。執筆分担は以下のとおりである。
I 埋蔵文化財調査 1～3 村本 薫
II 文化財保護・管理 1 松井佳穂 2～8 村本 薫
III 文化財活用啓蒙活動 1～7 村本 薫
IV 指定文化財一覧表 村本 薫
V 文化財関係刊行図書一覧 村本 薫
- 8 本書に収録した実測図、写真及び出土遺物はすべて御前崎市教育委員会が保管している。

目 次

巻頭図版
序 文
例 言
目 次

I	埋蔵文化財調査	1
1	市内遺跡試掘調査・工事立会の概要	1
2	南谷遺跡試掘調査報告書	2
3	出土遺物整理事業	10
II	文化財保護・管理	11
1	国指定天然記念物「御前崎のウミガメ及びその産卵地」保護事業	11
2	県指定名勝「桜ヶ池」松伐採の現状変更	39
3	県指定天然記念物「比木賀茂神社社叢」の損傷及び維持の措置	41
4	県指定天然記念物「比木賀茂神社社叢」の樹幹崩壊危険樹および枯死樹等調査	43
5	市指定天然記念物「いちょうの木」製枝及び倒木回避の現状変更	51
6	文化財看板の新設・修繕工事等	52
7	文化財防火デー	53
8	御前崎市文化財保護審議会	54
III	文化財活用・啓発活動	56
1	埋蔵文化財出張授業	56
2	市内イベントにおける埋蔵文化財体験学習ブースの開設	57
3	薩田ヶ谷横穴群親子見学会の開催	58
4	御前崎市文化財講座	59
5	御前崎市指定有形文化財「本間家文書展」	61
6	写真資料の利用	68
7	歴史民俗資料等の特別利用	68
8	歴史民俗資料等の貸出	68
IV	指定文化財一覧表	70
V	文化財関係刊行図書一覧	71

御前崎市の地形と調査・工事立会遺跡の位置



埋蔵文化財試掘調査・工事立会箇所一覧

1 朝比奈城山

2 南谷遺跡

3 中尾殿之谷遺跡

I 埋蔵文化財調査

1 市内遺跡試掘調査・工事立会の概要

埋蔵文化財包蔵地(遺跡)及びその周辺地を確認するため試掘調査・工事立会を実施した。

試掘調査は、個人住宅新築工事や樹木の伐採工事等の開発事業に伴い、現地を詳細に踏査するとともに工事予定箇所周辺に試掘坑を設定し、遺物や遺構の所在の有無や土層断面などを調査して、埋蔵文化財の所在の有無等を確認した。今年度は下表に示す、2件の試掘調査と3件の工事立会を実施した。

第1表 平成30年度 市内遺跡試掘調査・工事立会実施遺跡一覧表

No.	遺跡名	実施場所	実施原因	事業主体	実施時期	面積/概要	備考
1	朝比奈城山	御前崎市下朝比奈字南	個人住宅新築工事	個人	H30. 7. 31	試掘調査 3㎡ (試掘坑1箇所) 遺構・遺物未発見	
2	南谷遺跡	御前崎市下朝比奈字南	個人住宅新築工事	個人	H30. 10. 19	試掘調査 4㎡ (試掘坑1箇所) 弥生時代の小型磨製石斧、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の上器が出土	
3	朝比奈城山	御前崎市下朝比奈字南	個人住宅新築工事	個人	H30. 9. 26～ H30. 3. 31	工事立会 210. 54㎡ 遺構・遺物未発見	
4	南谷遺跡	御前崎市下朝比奈字南	個人住宅新築工事	個人	H30. 11. 1～ H31. 3. 31	工事立会 450㎡ 遺構・遺物未発見	
5	中尾殿之谷遺跡	御前崎市新野字坂田	樹木の伐採工事	御前崎市	H30. 6. 13～ H30. 6. 15	工事立会 600㎡ 遺構・遺物未発見	埋蔵文化財発掘の通知の遅滞に伴う顛末書を県教育員会教育長へ送付



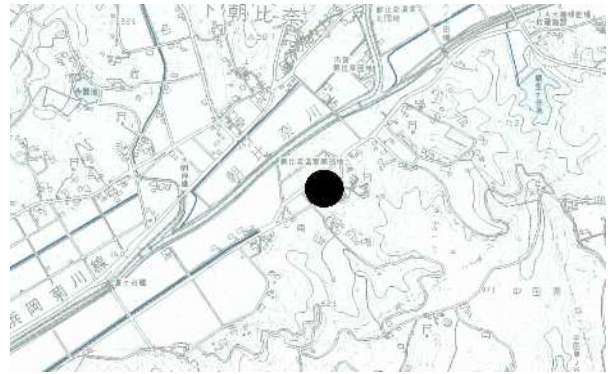
写真1 朝比奈城山試掘調査風景



写真2 中尾殿之谷遺跡工事立会

2 南谷遺跡試掘調査報告書

所在地 御前崎市下朝比奈字南 3328-3
調査主体者 御前崎市教育委員会
調査担当者 社会教育課 村本 薫
調査面積 4 m²(トレンチ1箇所)
確認調査期間 平成30年10月19日
調査目的 個人住宅新築工事に伴う試掘調査



第1図 遺跡の位置(1/25,000)

(1) 調査に至る経緯

平成30年9月27日に植田秀彦氏より、個人住宅新築工事(以下、当該地という)に伴う文化財の所在の有無についての照会があった。

照会のあった当該地の文化財について現地踏査や遺跡地図及び文献資料の確認を実施した結果、土器や石器などの遺物は発見されなかったが、周知の埋蔵文化財包蔵地である南谷遺跡に位置していることが判明した。

南谷遺跡については、昭和40年12月から昭和41年の1月にかけて静岡大学人文学部によって発掘調査が行われている。また、平成9年から平成10年にかけて、浜岡町教育委員会が町道(228号)早苗町南線の改良舗装工事に伴い発掘調査が実施された。

これらの調査によって、南谷遺跡からは、土器、土製品をはじめ、木製品、石器、骨角製品など多量量の遺物が出土した。

しかし、当該地は以前に発掘調査が実施された場所からやや離れており、水田に盛土も行われていることから、埋蔵文化財の所在の有無や埋蔵文化財包含層の深さなどを把握するための試掘調査を実施する必要があると判断された。

平成30年9月27日付で土地所有者の植田秀彦氏より「埋蔵文化財の試掘・確認調査依頼書」と「発掘調査承諾書」が提出された。そのため、平成30年10月11日付御教社第161号で、御前崎市教育委員会教育長 河原崎全より静岡県教育委員会教育長宛てに文化財保護法99条の1に基づく「発掘調査について」を送付した。

そして、平成30年10月19日に2×2m、御前崎市白羽3513番地の16に1.5m×4mの試掘坑をそれぞれ1箇所ずつ設定し、包含層の位置や厚さ、遺跡の時代、内容などを確認するための試掘調査を実施した。

(2) 位置と環境(第2図)

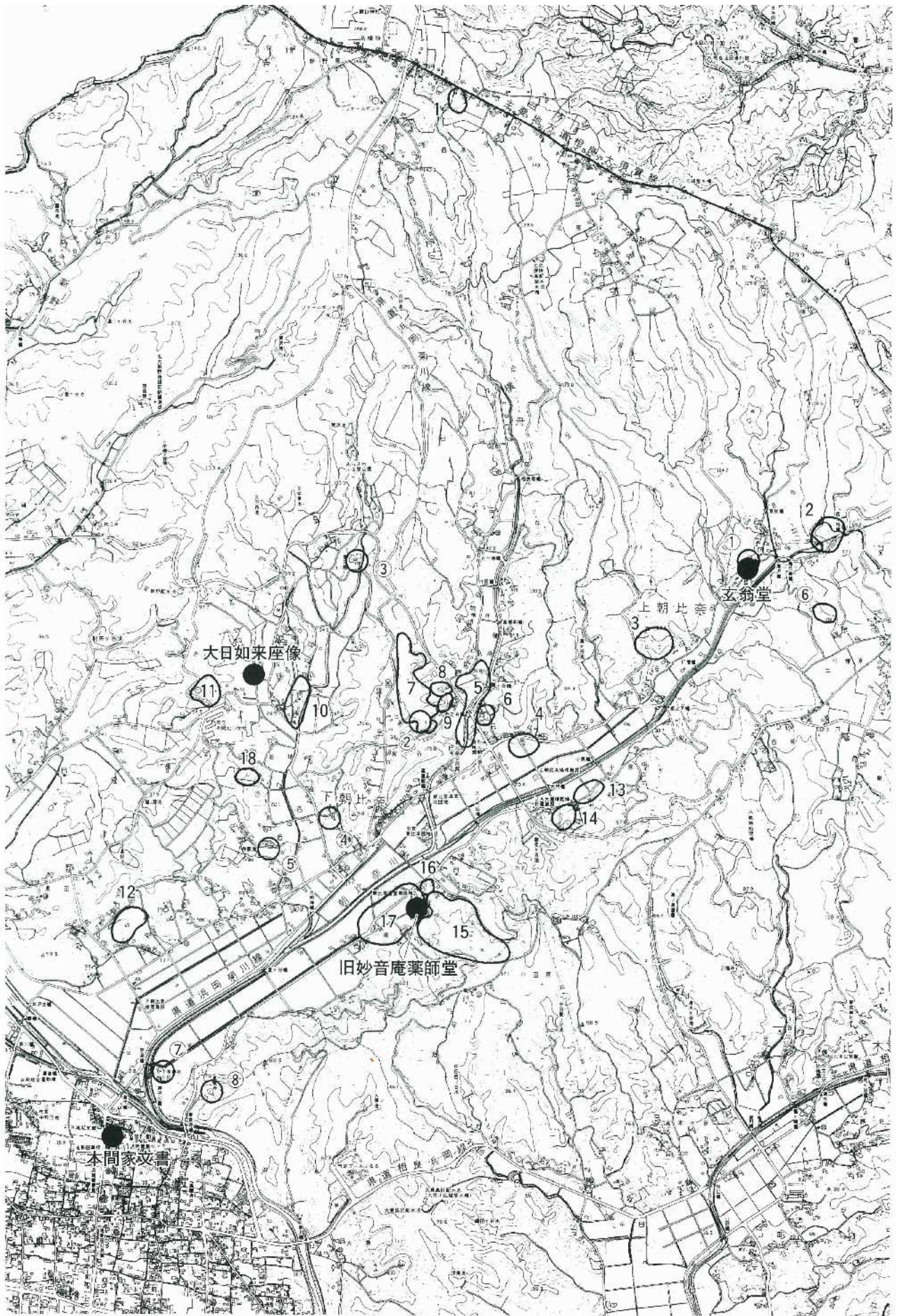
南谷遺跡は、牧ノ原台地を開析して南流する新野川の支流である朝比奈川の左岸に位置している。朝比奈川は、御前崎市北部のほぼ中央部い位置しており、上朝比奈の京松原から下朝比奈にかけて、北東から南西方向に流下し、横舟川などの支流とともに、牧ノ原台地を開析して沖積地を形成しながら、下朝比奈と池新田の境辺りで新野川と合流し、遠州灘に流れ込む二級河川である。

南谷遺跡(17)は、この朝比奈川の左岸に位置しており、牧ノ原台地から延びた中田原の小支谷の1つである南谷と呼ばれる谷の低湿地部分に位置している。

南谷遺跡の位置する朝比奈地区には、縄文時代から中世に至る遺跡が存在している。縄文時代の集落遺跡では、南谷遺跡(17)の上流部に小泉遺跡(4)が位置している、昭和41年に農業構造改善事業に伴い、静岡大学によって緊急の調査が実施されている。その結果、御前崎市ではじめて発見された縄文時代晩期前半の3軒の住居跡の遺構から、二枚貝の条痕文が残る土器片や、深鉢形土器の口縁部や底部破片などが出土している。また、石錐、石鏃、剥片石器、打製石斧、局部磨製石斧、乳棒状磨製石斧、石刀の頭部破片などが出土している。この遺跡は沖積低地に縄文時代の集落が営まれていたことが分かる遺跡として重要である。

古墳時代の遺跡としては、古墳時代の土師器が出土している遺物散布地の岩地遺跡(10)や、円墳である長月院古墳(4)、横穴墓の西原横穴群(18)などが存在する。

中世の遺跡としては、鎌倉時代の遺物散布地である横舟遺跡(5)や豊受神社北遺跡(13)、館跡で



第2図 朝比奈地区遺跡地図

第2表 朝比奈地区遺跡地名表

番号	遺跡名	種別	地区	時代	備考	番号	遺跡名	種別	地区	時代	備考
1	西原遺跡	散布地	上朝比奈	縄文(早期)	トトロ石器	10	岩地遺跡	散布地	下朝比奈	古墳	
2	大沢遺跡	散布地	上朝比奈	鎌倉		11	王城坊古墳	古墳	下朝比奈	奈良	
3	山ヶ谷古墳	古墳	上朝比奈	古墳(中期)	三環鈴	12	大谷遺跡	散布地	下朝比奈	縄文	
4	小泉遺跡	集落	上朝比奈	縄文~平安・鎌倉		13	豊受神社北遺跡	散布地	上朝比奈	鎌倉	
5	横舟遺跡	散布地	上朝比奈	鎌倉		14	朝比奈氏墓地	墓地	上朝比奈	平安~近世	
6	横舟西之谷遺跡	埋蔵銭	上朝比奈	中世	銭貨出土	15	朝比奈城山遺跡	城館跡	下朝比奈	中世	
7	横船城跡	城館跡	上朝比奈	中世		16	伝曾根屋敷跡	城館跡	下朝比奈	中世	
8	藤ヶ谷館跡	城館跡	上朝比奈	中世		17	南谷遺跡	集落	下朝比奈	弥生~鎌倉	
9	長月院古墳	古墳	上朝比奈	古墳	円墳	18	西平横穴群	横穴	下朝比奈	古墳	

ある藤ヶ谷館跡(8)、伝曾根屋敷跡(16)、城跡である横舟城跡(7)、朝比奈城山遺跡(15)などが所在している。藤ヶ谷館跡(8)は横舟城跡(7)の麓に位置しており、中世の在地領主である朝比奈氏の居館跡と伝えられている。伝曾根屋敷跡(16)は、朝比奈城山遺跡(15)の麓に位置しており、曾根孫大夫長一の屋敷跡と伝えられている。

また、朝比奈川左岸の小泉にある朝比奈氏墓地(14)には、朝比奈三郎の墓と伝えられる宝篋印塔が存在している。

(3) 調査概要

① 調査方法

試掘調査は、当該地に2m×2mの試掘坑をそれぞれ1箇所ずつ設定して実施した。

試掘坑の掘削は、主に重機(バックホー0.15級)を使用して実施した。試掘坑の掘削終了後、遺物の発掘作業を作業員4名により実施した。

それと並行して、試掘坑の完掘状況と土層断面の写真撮影を行い、土層柱状図や試掘坑配置図を作成した(基本層序については別紙のとおりである)。

写真撮影及び土層柱状図の作成、遺物の発掘作業終了後、機材等を撤収して試掘調査を終了した。調査終了後、重機により埋め戻しを行った。

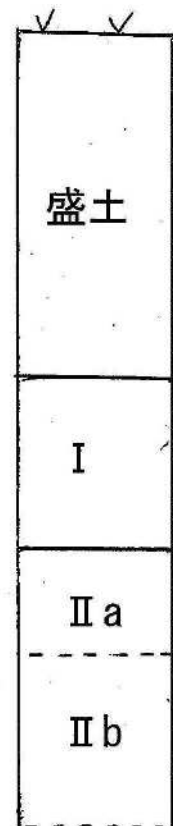
② 基本層序

盛土層 資材置場として30年ほど前に造成された盛土層である。上部10cmには、破碎礫が敷かれている。

I 層 明褐色粘土層で、盛土を行う以前の水田の耕作面に当たる。出土遺物は皆無である。

II 層 黒色粘土層で、今回の試掘調査で弥生時代後期の土器や石器が出土した。上部がやや明るいことから、II a層とII b層に細分層した。

III 層 粘土とシルト層の互層で、2~5cm位の緑色の粘土ブロックが少量混入する。



第3図 試掘坑柱状図 (S=1/20)

③ 包含層の出土遺物

遺物は試掘坑1のⅡ層から出土した。Ⅱ層は、明るさなどからⅡa層とⅡb層の2層に分層した。大半の遺物は、Ⅱb層から出土している。

今回の試掘調査で出土した遺物はコンテナ1箱分である。土器は古墳時代の土師器と弥生時代後期の菊川式土器が出土している。土器以外では磨製石斧が1点出土している。

A 出土土器類(第5図)

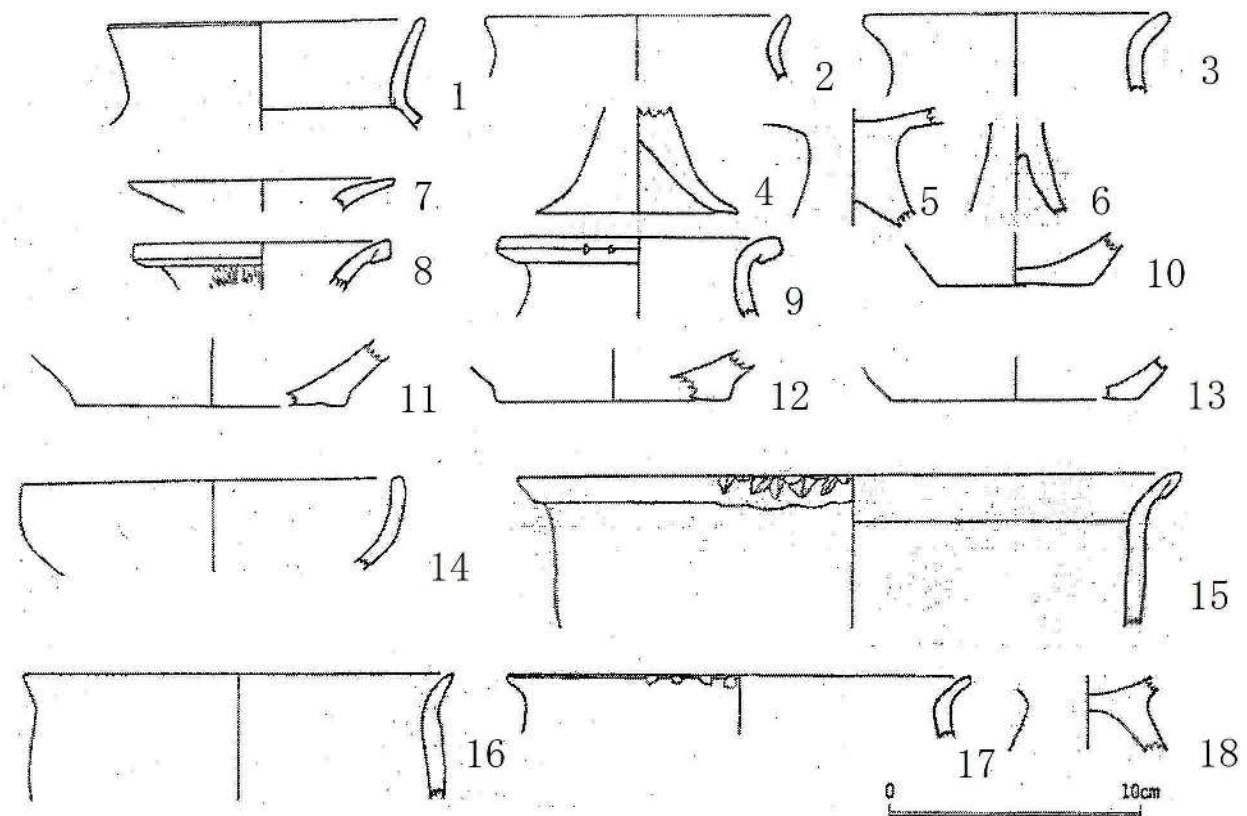
1は、古墳時代前期の時期に相当する単純口縁壺の口縁部破片である。口縁部の形態は、口縁の開きが大きく、弧を呈している。胎土は、橙色の砂粒が混入している。色調は、外面及び内面共に褐灰色である。残存部の器高が4.4cm、推定口径12.6cmである。

2・3はともに古墳時代前期の時期に相当する小型壺の口縁部破片である。2・3ともに口縁部が「く」の字に開く単純口縁である。

2の胎土には、白、灰、橙色の1～2mm程の砂粒が混入している。色調は、外面が明褐灰色、内面が灰黄褐である。残存部の器高が2.6cm、推定口径12.1cmである。

3の胎土は、白、灰色の1mm以下の砂粒で構成されている。色調は、外面及び内面共に赤褐色である。残存部の器高が3.2cm、推定口径12.2cmである。

4～6は、古墳時代中期の5世紀前半の時期に相当する高坏の脚部破片で、脚部が直線的に開き、明瞭な稜をもち脚裾部がさらに大きく開く形態である。4～6ともに、胎土に灰、橙色の1～2mm程の砂粒が混入している。



第5図 南谷遺跡試掘調査試掘坑出土土器類実測図

4は色調が外面及び内面ともに灰白色である。残存部の器高が4.63cm、推定底径8.0cmである。

5は色調が外面及び内面ともに明褐色である。残存部の器高が4.7cmで、裾部を欠損している。

6の色調は、外面がにぶい褐色、内面が褐灰色である。6の残存部の器高は3.5cmで、裾部を欠損している。

7は、弥生時代後期前半新段階に相当する菊川式土器の単純口縁壺の口縁部破片である。表面が摩耗しているため調整技法は不明である。胎土は1mm以下の細かい砂粒で構成されている。色調は、外面及び内面ともに明褐色である。残存部の器高は1.3cmで、推定口径10.6cmである。

8・9は、弥生時代後期後半古段階に相当する菊川式土器の折返口縁壺の口縁部破片である。内面や口唇部外面は摩滅しているため不明であるが、調整技法を見ると8・9とも外面頸部をタテハケで調整している。9の口唇部外面にはキザミが施されている。8の胎土には灰、橙色の1~2mm程の砂粒が少量混入している。色調は、外面及び内面ともに灰白色である。残存部の器高が1.9cm、推定口径10.2cmである。

9の胎土には灰、橙色の1~2mm程の砂粒が多量に混入している。色調は、外面及び内面ともに灰白色である。残存部の器高が3.2cm、推定口径11.4cmである。

10~13は、弥生時代後期に相当する菊川式土器の底部破片である。10の色調は、外面がにぶい橙色、内面が灰白色である。10の残存部の器高は2.1cmで、推定底径は6.2cmである。

11の色調は、外面がにぶい橙色、内面が褐灰色である。11の残存部の器高は2.7cmで、推定底径は10.6cmである。

12の色調は、外面及び内面ともに褐灰色である。12の残存部の器高は2.0cmで、推定底径は9.2cmである。

13の色調は、外面及び内面ともに褐灰色である。13の残存部の器高は1.7cmで、推定底径は9.8cmである。

14は、弥生時代後期前半新段階に相当する菊川式土器の鉢の口縁部破片である。表面が摩耗しているが、口縁部外面にRL単節縄文が施されているのがかすかに認められる。外面及び内面ともに灰褐色である。残存部の器高は3.6cmで、推定口径は15.2cmである。

15~17は、弥生時代後期前半古段階に相当する菊川式土器の甕の口縁部破片である。15~17ともに表面が摩耗しているため調整技法は不明である。

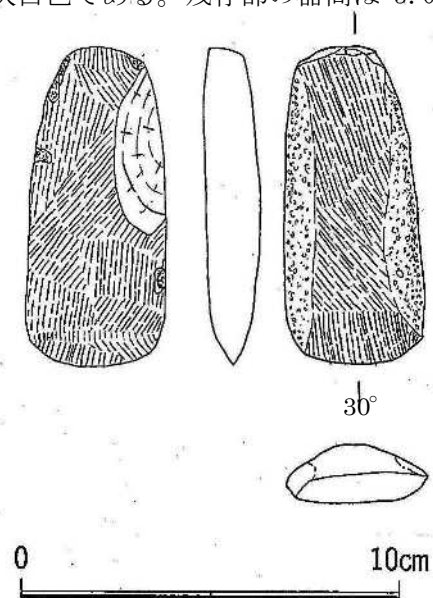
15は、口縁部が折返口縁で、口唇部にキザミが施されている。色調は、外面がにぶい橙色、内面が明褐色である。残存部の器高は6.1cm、推定口径21.4cmである。

16は、口縁部が単純口縁である。色調は外面及び内面ともに灰白色である。残存部の器高は5.0cm、推定口径17.2cmである。

17は、口縁部が単純口縁で口唇部にキザミが施されている。色調は、外面及び内面ともににぶい橙と褐灰色である。残存部の器高は2.4cm、推定口径18.6cmである。

18は、弥生時代後期に相当する菊川式土器の甕の接合部破片である。表面が摩耗しているため、調整技法は不明である。色調は、外面及び内面ともににぶい橙色である。残存部の器高は3.0cmである。

19は、弥生時代後期の偏平蛤刃石斧である。法量は、長さ8.4cm、幅3.7cm、厚さ1.5cm、重さ74.8gで完形である。偏平蛤刃石斧としては幅が3.7cmであることから中型製品である。刃部は両刃気味のもので、体部もやや丸みをおびた形態のものである。裏面はきれいに研磨されているが、一部欠損が認められる。表面の両側面は敲打調整されている。刃角は30°以上になるもので、石材は輝緑岩である。



第6図 南谷遺跡試掘坑出土石器実測図

(4) まとめ

今回の試掘調査では、南谷遺跡の個人住宅新築工事周辺に、試掘坑1を1箇所設定して試掘調査を実施した。その結果、試掘坑1から弥生時代後期の菊川式土器と同時期の偏平蛤刃石斧が1点が出土している。

南谷遺跡については、昭和40年12月から昭和41年の1月にかけて静岡大学人文学部によって発掘調査が行われている。また、平成9年から平成10年にかけて、浜岡町教育委員会が町道(228号)早苗町南線の改良舗装工事に伴い発掘調査が実施された。

これらの調査によって、南谷遺跡からは、土器、土製品をはじめ、木製品、石器、骨角製品など多種多量の遺物が出土した。遺構では、県内でも類例の少ない弥生時代中期後葉から後期前半の周溝をもつ住居跡が10軒分も発見された。遺物では、弥生時代中期後葉から後期の土器が多量に出土したことにより、今まで不明な点が多かったこの地域の土器様相を把握する上での貴重な資料が得られた、また、弥生時代後期の動物遺体を利用して制作された「ト骨」等の骨角製品が出土し、更に木製品や石器は東遠江で最も充実した資料が出土しており、御前崎市における初期水田農耕の時代を代表する遺跡であると判断されている。

今回の試掘調査箇所は、盛土がされているためⅡ層の黒色粘土層までしか掘削できなかったが、弥生時代後期前半古段階から後期後半の菊川式土器や偏平蛤刃石斧が出土し成果があった。

今後、南谷遺跡周辺の遺物の詳細分布調査や試掘調査、確認調査等を実施することによって、遺跡の範囲や内容が更に判明するのではないかとと思われる。



1 表土掘削作業



2 試掘坑1発掘状況



3 試掘坑1土層北壁断面



3 試掘坑1土層北壁断面計測状況

写真3 南谷遺跡試掘調査1



1 遺物の発掘作業風景 1



2 遺物の発掘作業風景 2



3 遺物の発掘作業風景 3



4 遺物の発掘作業風景 4

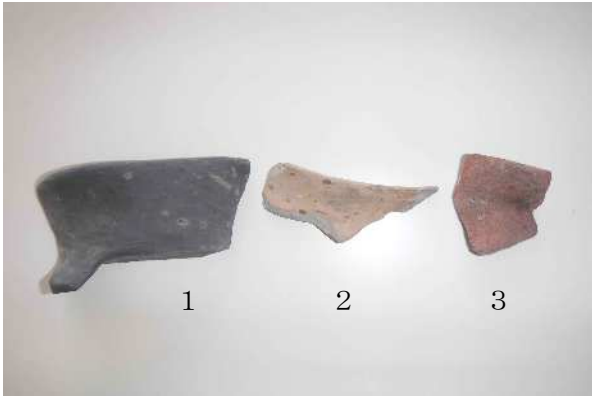


5 遺物の出土状況



6 試掘坑の埋め戻し風景

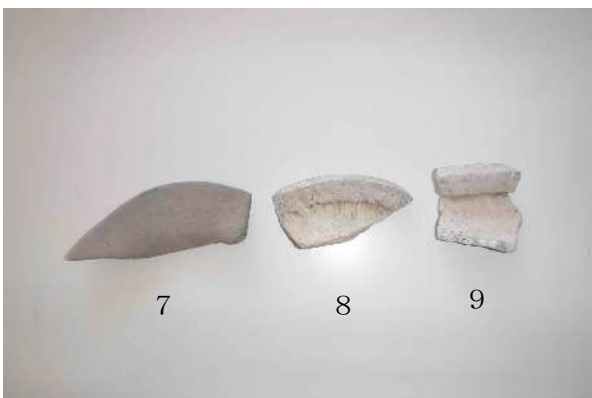
写真 4 南谷遺跡試掘調査 2



1 南谷遺跡出土土器類 1～3



2 南谷遺跡出土土器類 4～6



3 南谷遺跡出土土器類 7～9



4 南谷遺跡出土土器類 10～13



5 南谷遺跡出土土器類 14～17



6 出土土器類 18



6 南谷遺跡出土石器

写真5 南谷遺跡試掘調査出土遺物

3 出土遺物整理事業

市内遺跡の整理事業は、作業員1名で過去に実施した埋蔵文化財発掘調査写真の再整理及び平成30年度に試掘調査を実施した朝比奈城山、南谷遺跡の図面類や出土遺物の整理事業などを実施した。

過去に実施した埋蔵文化財発掘調査写真の再整理は、年間を通じて行い、7月31日に試掘調査を実施した朝比奈城山の図面関係の整理事業は8月上旬に実施した。10月19日に試掘調査を実施した南谷遺跡の図面関係や出土遺物の整理事業は、10月下旬から11月にかけて実施した。

II 文化財保護・管理

1 国指定天然記念物『御前崎のウミガメ及びその産卵地』保護事業

(1) 調査報告

① ウミガメ上陸・産卵地

御前崎海岸には、昔から主にアカウミガメが上陸し、産卵をしている。世界的にも希少動物となったアカウミガメを保護するため、昭和 55 年 3 月 6 日に「御前崎のウミガメ及びその産卵地」が国指定天然記念物に指定された。

産卵地としての指定区域は、下岬海岸及びキンスから東松沢川までの約 1.9km の海岸部であり、御前崎海岸の全体というわけではなく、第 1 区の一部と、第 2 区、第 3 区が指定地内となり、第 4 区、第 5 区は指定地外である。特に、第 2 区、第 3 区、第 4 区、第 5 区は、護岸堤の設置や高波による海岸の砂の流出により、産卵場所が減少している。第 1 区に関しては、砂の堆積がみられる等他区と比較して産卵場所を確保しやすいが、砂を掘ると水が湧く等、産卵に適しているとはいえない。また、ビニール類、ペットボトル等の生活ゴミ、流木等が散乱して産卵するウミガメにとっては厳しい状況である。

平成 30 年度においては、昨年度に引き続き、上陸頭数・産卵頭数・産卵個数が例年を著しく下回る結果となった。これらの数字については、周期的に増減を繰り返しているが、その増減の原因はアカウミガメの生態が解明されていない現時点では、明確な回答が出ない状態である。ウミガメの産卵周期にかかわる現象であれば、再度増加に転ずることも考えられるため、その推移を見守るとともに、産卵場所となる海岸の保全に努めたい。

② 巡視区域と保護監視員

教育委員会から委嘱された 8 名(御前崎海岸 4 名・浜岡海岸 4 名)の保護監視員が担当区域を巡視して、上陸・産卵頭数等の確認調査を実施した。

第 1 区	マリンパーク	から	元	根	(鈴木 紀捷)
第 2 区	元	根	から	芹	沢 (大澤 茂美)
第 3 区	芹	沢	から	東松沢川	(大澤 茂美)
第 4 区	東松沢川	から	尾	高	(澤部 春市)
第 5 区	尾	高	から	箆川	(高田 正義)
浜 1 区	新野川	から	本町・中町の境		(中田 豊)
浜 2 区	本町・中町の境	から	七つ山・塩原の境		(早馬 彰夫)
浜 3 区	七つ山・塩原の境	から	塩原・合戸の境		(増田 均)
浜 4 区	塩原・合戸の境	から	合戸・掛川市の境		(良知 正美)

③ 保護監視員の任務

- ・産卵シーズンの毎朝、各自担当する区域の巡視
- ・ふ化開始からふ化終了までのふ化場巡視
- ・ウミガメに関する注意、呼びかけ
- ・上陸頭数、産卵頭数、産卵個数、ふ化頭数の確認調査
- ・卵及び子ガメの安全管理（ふ化場への移動）
- ・子ガメのふ化管理と放流
- ・海岸に漂着したウミガメの死骸処理及び供養

④ 平成 30 年度ウミガメ保護監視員及び事務局の主な活動記録
(全体活動)

- ・ウミガメ保護監視員による早朝、夜間巡視（5月15日開始）
- ・ふ化巡視（8月3日開始）

< 4 月 >

18 日 ウミガメ保護監視員会議

< 5 月 >

- 1 日 亀バックホーム大作戦（御前崎中学校行事）
- 8 日 子亀供養祭
- 15 日 ウミガメ保護活動開始
- 26 日 アカウミガメ初上陸（浜岡 2 区 浜岡砂丘西）
- 29 日 アカウミガメ初産卵（浜岡 3 区 七ツ山 113 個）

< 7 月 >

- 6 日 御前崎小学校アカウミガメ放流
- 10 日 玉滝中学校ウミガメ学習会（生徒 7 名・引率職員 3 名参加）
- 27 日 ウミガメ産卵観察会（参加者延べ 94 名）実施 1 日間 期間中上陸確認 1 頭

< 8 月 >

- 3 日 ウミガメ初ふ化【5/29 七ツ山 5/30 七ツ山 産卵分】
- 26 日 一般子ガメ放流観察会（参加者延べ 165 名）

< 9 月 >

- 11 日 子ガメ受け入れ式（御前崎小学校）

< 10 月 >

- 31 日 アカウミガメふ化場卵掘起こし

< 3 月 >

- 8 日 ウミガメ保護監視員視察研修(名古屋港水族館)

⑤ 上陸・産卵・ふ化状況

平成 30 年度における御前崎市のアカウミガメ上陸・産卵・ふ化状況については、集計表を掲載する。



1 H30.5.1 亀バックホーム大作戦



2 H30.5.8 子亀供養祭



3 H30.5.29 初産卵採捕 113個



4 H30.7.6 御前崎小学校アカウミガメ放流



5 H30.7.10 王滝中学校ウミガメ学習会

写真6 御前崎のウミガメ及びその産卵地保護事業の様子 1

第7図

ウミガメ巡視区域図 (御前崎地区)



第3表

平成30年度アカウミガメ上陸・産卵/日・月別集計表(御前崎)

(5月分)

区 日	1区			2区			3区			4区			5区			合計		
	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上陸	産卵	産卵個数
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		
22																		
23																		
24																		
25																		
26																		
27																		
28																		
29																		
30																		
31																		
月計																		
総計																		

*表中で、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{上及び上陸は、上陸した親亀頭数} \\ \text{産及び産卵は、上陸した親亀で産卵した頭数} \\ \text{卵及び産卵個数は、産卵した卵の個数} \end{array} \right\}$ を示す。

第4表
平成30年度アカウミガメ上陸・産卵/日・月別集計表(御前崎)

(6月分)

区 日	1区			2区			3区			4区			5区			合 計		
	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上陸	産卵	産卵個数
1																		
2																		
3																		
4									1	1	119				1	1	119	
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16									2	2	209				2	2	209	
17																		
18									1	1	32				1	1	32	
19																		
20																		
21																		
22																		
23																		
24																		
25																		
26						1			1				1		3			
27						1			1						2			
28																		
29						2									2			
30																		
月計						4			6	4	360		1		11	4	360	
総計						4			6	4	360		1		11	4	360	

*表中で、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{上及び上陸は、上陸した親亀頭数} \\ \text{産及び産卵は、上陸した親亀で産卵した頭数} \\ \text{卵及び産卵個数は、産卵した卵の個数} \end{array} \right\}$ を示す。

第5表

平成30年度アカウミガメ上陸・産卵/日・月別集計表(御前崎)

(7月分)

区 日	1区			2区			3区			4区			5区			合計		
	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上陸	産卵	産卵個数
1									1						1			
2							1	1	144	1	1	116				2	2	260
3																		
4																		
5							1								1			
6										2	1	120				2	1	120
7																		
8	1	1	103				1								2	1	103	
9										1	1	93			1	1	93	
10																		
11																		
12							2	1	83						2	1	83	
13																		
14							1			1	1	98			2	1	98	
15																		
16							1						1	1	80	2	1	80
17							1			1					2			
18	1						2			1	1	97			4	1	97	
19	1						1						1		3			
20	3						1			1					5			
21										1	1	128	1		2	1	128	
22																		
23	1	1	111												1	1	111	
24										1	1	75			1	1	75	
25							1								1			
26							1						1		2			
27							1	1	80						1	1	80	
28	1	1	96												1	1	96	
29																		
30	1	1	111							1	1	90			2	2	201	
31							1								1			
月計	9	4	421	4	2	163	12	1	144	12	8	817	4	1	80	41	16	1,625
総計	9	4	421	4	2	163	16	1	144	18	12	1,177	5	1	80	52	20	1,985

*表中で、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{上及び上陸は、上陸した親亀頭数} \\ \text{産及び産卵は、上陸した親亀で産卵した頭数} \\ \text{卵及び産卵個数は、産卵した卵の個数} \end{array} \right\}$ を示す。

第6表

平成30年度アカウミガメ上陸・産卵/日・月別集計表(御前崎)

(8月分・9月分)

区 日	1区			2区			3区			4区			5区			合計		
	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上陸	産卵	産卵個数
1													1	1	86	1	1	86
2																		
3									1	1	104					1	1	104
4									1	1	128					1	1	128
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11	1								1							2		
12	1														1			
13	1														1			
14	2														2			
15																		
16	1														1			
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		
22							1									1		
23																		
24																		
25																		
26																		
27																		
28																		
29																		
30																		
31																		
月計	6						1			3	2	232	1	1	86	11	3	318
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
総計	15	4	421	4	2	163	17	1	144	21	14	1,409	6	2	166	63	23	2,303

*表中で、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{上及び上陸は、上陸した親亀頭数} \\ \text{産及び産卵は、上陸した親亀で産卵した頭数} \\ \text{卵及び産卵個数は、産卵した卵の個数} \end{array} \right\}$ を示す。

No.	産卵月日	産卵場所	産卵個数	ふ化月日	ふ化頭数	死亡頭数	ふ化日数	ふ化率	備考
1	6月4日	薄原	119					0.00%	第4区:
				計	0	0			
2	6月16日	小憎山	115	8月11日	9	0	56	46.95%	第4区:朝 第4区:夜 第4区:朝 第4区:夜 第4区:夜
				8月11日	10	0	56		
				8月13日	15	0	58		
				8月14日	19	0	59		
				8月20日	1	0	65		
				計	54	0			
3	6月16日	尾高	94					0.00%	第4区:
				計	0	0			
4	6月18日	尾高	32					0.00%	第4区:
				計	0	0			
5	7月2日	小憎山	116					0.00%	第4区:
				計	0	0			
6	7月2日	広沢	144	8月20日	88	0	49	70.13%	第3区:朝 第3区:夜 第3区:朝
				8月20日	8	0	49		
				8月23日	5	1	52		
				計	101	1			
7	7月8日	通り	103					0.00%	第1区:
				計	0	0			
8	7月6日	薄原	120					0.00%	第4区:
				計	0	0			
9	7月9日	小憎山	93	8月24日	11	0	46	32.25%	第4区:夜 第4区:夜
				8月25日	19	0	47		
				計	30	0			
10	7月12日	灯台下	83					0.00%	第2区:
				計	0	0			
11	7月14日	小憎山	98	8月30日	4	0	47	17.34%	第4区:朝 第4区:夜 第4区:朝
				8月31日	11	0	48		
				9月3日	2	0	51		
				計	17	0			
12	7月16日	しるたれ川	80	9月2日	13	0	48	20.00%	第5区:朝 第5区:夜
				9月8日	3	0	54		
				計	16	0			
13	7月18日	尾高	97					0.00%	第4区:
				計	0	0			
14	7月21日	小憎山	128	9月10日	32	0	51	25.00%	第4区:朝
				計	32	0			
15	7月23日	通り	111					0.00%	第1区:
				計	0	0			
16	7月24日	小憎山	75					0.00%	第4区:
				計	0	0			
17	7月27日	灯台下	80	9月16日	1	0	51	1.25%	第2区:朝
				計	1	0			
18	7月28日	あかがね	96	9月20日	26	0	54	27.08%	第1区:朝
				計	26	0			
19	7月30日	通り	111					0.00%	第1区:
				計	0	0			
20	7月30日	小憎山	90					0.00%	第4区:
				計	0	0			

第8表 平成30年度 アカウミガメふ化状況集計表 (御前崎)

No.	産卵月日	産卵場所	産卵個数	ふ化月日	ふ化頭数	死亡頭数	ふ化日数	ふ化率	備考
21	8月1日	尾高西	86	9月20日	73	0	50	84.88%	第5区:夜
				計	73	0			
22	8月3日	小憎山	104					0.00%	第4区:
				計	0	0			
23	8月4日	薄原	128					0.00%	第4区:
				計	0	0			
合計平均			2,303		350	1	52.16	15.20%	

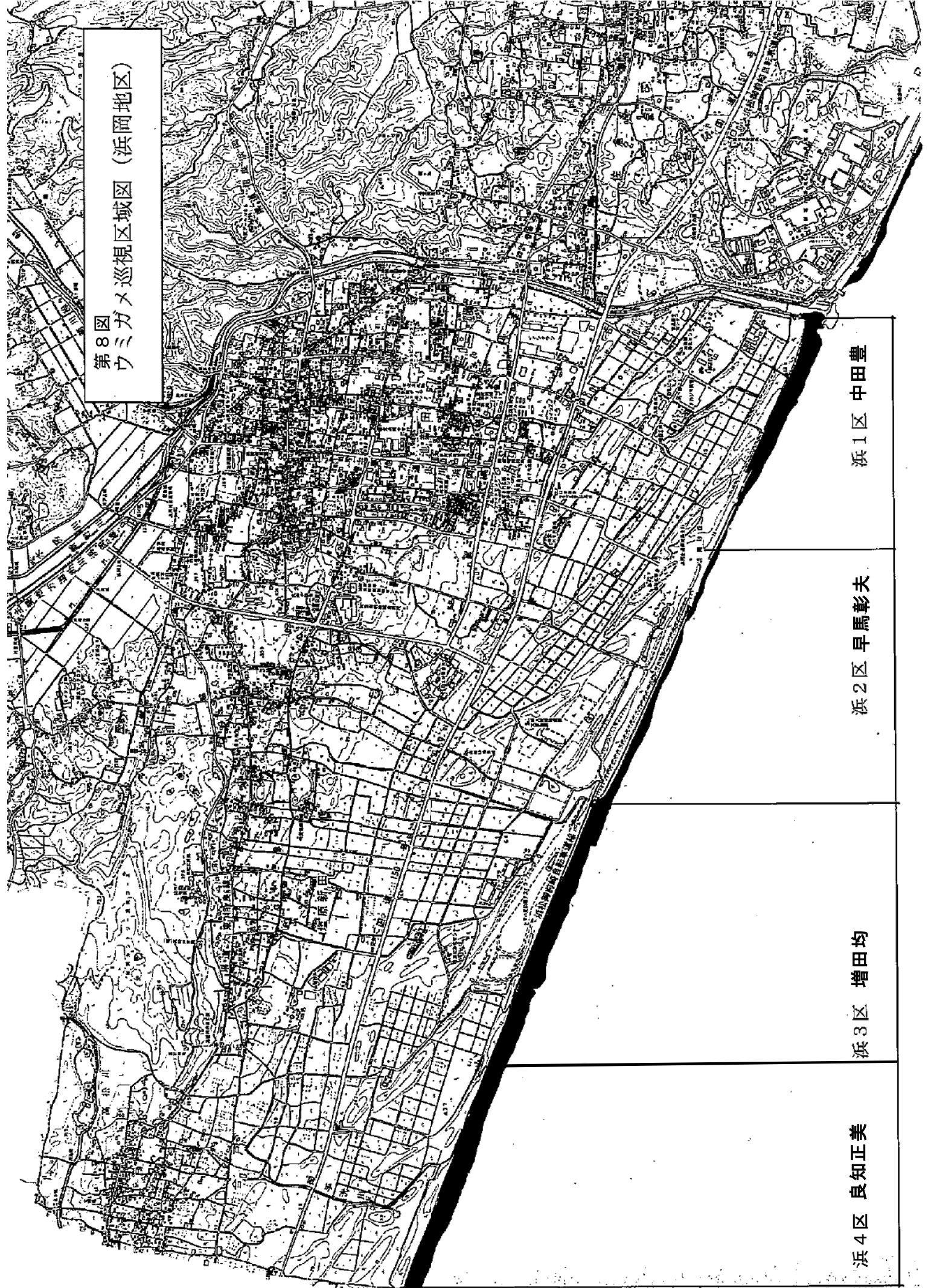
放流頭数(御小20匹除く)	349
0%巣を除いたふ化率	38.04%

最大ふ化率	84.88%
最小ふ化率	1.25%

ふ化率	巣数	比率	卵数	比率
90%以上	0	0.00%	0	0.00%
80%以上90%未満	1	4.35%	86	3.73%
70%以上80%未満	1	4.35%	144	6.25%
60%以上70%未満	0	0.00%	0	0.00%
50%以上60%未満	0	0.00%	0	0.00%
40%以上50%未満	1	4.35%	115	4.99%
30%以上40%未満	1	4.35%	93	4.04%
20%以上30%未満	3	13.04%	304	13.20%
10%以上20%未満	1	4.35%	98	4.26%
1%以上10%未満	1	4.35%	80	3.47%
0%	14	60.87%	1,383	60.05%
計	23	100.01%	2,303	99.99%

区名	巣数
第1区	4
第2区	2
第3区	1
第4区	14
第5区	2
計	23

第8図
ウミガメ巡視区域図 (浜岡地区)



浜1区 中田豊

浜2区 早馬彰夫

浜3区 増田均

浜4区 良知正美

第9表

平成30年度アカウミガメ上陸・産卵/日・月別集計表(浜岡)

(5月分)

区 日	1区		2区		3区		4区		合計		
	上	産卵	上	産卵	上	産卵	上	産卵	上陸	産卵	産卵個数
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
25											
26			1						1		
27											
28			1						1		
29					1	1	113		1	1	113
30					1	1	122		1	1	122
31											
月計			2		2	2	235		4	2	235
総計			2		2	2	235		4	2	235

*表中で、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{上及び上陸は、上陸した親亀頭数} \\ \text{産及び産卵は、上陸した親亀で産卵した頭数} \\ \text{卵及び産卵個数は、産卵した卵の個数} \end{array} \right\}$ を示す。

第10表

平成30年度アカウミガメ上陸・産卵/日・月別集計表(浜岡)

(6月分)

区 日	1区			2区			3区			4区			合計		
	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上陸	産卵	産卵個数
1				1									1		
2															
3							1	1	126				1	1	126
4															
5	1	1	96										1	1	96
6															
7															
8															
9															
10									1				1		
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18							1						1		
19															
20															
21															
22	1												1		
23	1	1	120						1				2	1	120
24															
25							1						1		
26															
27				1									1		
28															
29															
30															
月計	3	2	216	2			3	1	126	2			10	3	342
総計	3	2	216	4			5	3	361	2			14	5	577

*表中で、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{上及び上陸は、上陸した親亀頭数} \\ \text{産及び産卵は、上陸した親亀で産卵した頭数} \\ \text{卵及び産卵個数は、産卵した卵の個数} \end{array} \right\}$ を示す。

第11表
平成30年度アカウミガメ上陸・産卵/日・月別集計表(浜岡)

(7月分)

区 日	1 区			2 区			3 区			4 区			合 計		
	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上陸	産卵	産卵個数
1	1						1	1	138				2	1	138
2	1	1	125										1	1	125
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13							1			1			2		
14	1	1	137	1									2	1	137
15															
16	2			1			1	1	131	1	1	118	5	2	249
17				1	1	90	1						2	1	90
18				1	1	53							1	1	53
19				2									2		
20				1						1			2		
21							1	1	128	2	1	85	3	2	213
22															
23															
24				1									1		
25															
26															
27															
28	1												1		
29															
30															
31				1									1		
月計	6	2	262	9	2	143	5	3	397	5	2	203	25	9	1,005
総計	9	4	478	13	2	143	10	6	758	7	2	203	39	14	1,582

*表中で、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{上及び上陸は、上陸した親亀頭数} \\ \text{産及び産卵は、上陸した親亀で産卵した頭数} \\ \text{卵及び産卵個数は、産卵した卵の個数} \end{array} \right\}$ を示す。

第12表

平成30年度アカウミガメ上陸・産卵/日・月別集計表(浜岡)

(8月分・9月分)

区 日	1 区			2 区			3 区			4 区			合 計		
	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上	産	卵	上陸	産卵	産卵個数
1															
2							1	1	112				1	1	112
3															
4															
5							1						1		
6															
7															
8															
9										1			1		
10															
11				1	1	73							1	1	73
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
31															
月計				1	1	73	2	1	112	1			4	2	185
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
月計															
総計	9	4	478	14	3	216	12	7	870	8	2	203	43	16	1,767

*表中で、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{上及び上陸は、上陸した親亀頭数} \\ \text{産及び産卵は、上陸した親亀で産卵した頭数} \\ \text{卵及び産卵個数は、産卵した卵の個数} \end{array} \right\}$ を示す。

第13表 平成30年度 アカウミガメふ化状況集計表 (浜岡)

No.	産卵月日	産卵場所	産卵個数	ふ化月日	ふ化頭数	死亡頭数	ふ化日数	ふ化率	備考
1	5月29日	七ツ山	113	8月3日	52	30	66	46.01%	第3区:朝
				計	52	30			
2	5月30日	七ツ山	122	8月3日	2	2	65	6.55%	第3区:夜 第3区:朝
				8月4日	6	0	66		
				計	8	2			
3	6月3日	七ツ山	126	8月5日	46	0	63	53.17%	第3区:朝 第3区:朝 第3区:夜 第3区:朝 第3区:朝 第3区:朝
				8月6日	12	0	64		
				8月7日	5	0	65		
				8月9日	2	0	67		
				8月14日	1	0	72		
				8月15日	1	0	73		
				計	67	0			
4	6月5日	東町	96	8月4日	55	7	60	61.45%	第1区:朝 第1区:夜
				8月4日	4	0	60		
				計	59	7			
5	6月23日	本町	120					0.00%	第1区:
6	7月1日	七ツ山	138	8月20日	80	0	50	57.97%	第3区:朝
				計	80	0			
7	7月7日	東町	125					13.60%	第1区:夜
8	7月14日	東町	137	8月28日	12	0	45	20.43%	第1区:朝 第1区:夜 第1区:朝 第1区:朝
				8月28日	5	0	45		
				8月29日	6	0	46		
				8月30日	5	0	47		
				計	28	0			
9	7月16日	七ツ山	131	8月31日	90	0	46	70.22%	第3区:朝 第3区:朝 第3区:朝
				9月8日	1	0	54		
				9月16日	1	0	62		
				計	92	0			
10	7月16日	塩原	118	8月31日	68	1	46	57.62%	第4区:朝
				計	68	1			
11	7月17日	浜岡砂丘	90	9月1日	35	0	46	38.88%	第2区:夜
				計	35	0			
12	7月18日	浜岡砂丘	53	9月5日	14	0	49	26.41%	第2区:朝
				計	14	0			
13	7月21日	塩原	85					0.00%	第4区:
				計	0	0			
14	7月21日	七ツ山	128	9月10日	47	0	51	36.71%	第3区:夜
				計	47	0			
15	8月2日	七ツ山	112					0.00%	第3区:
16	8月11日	浜岡砂丘	73					0.00%	第2区:
				計	0	0			
合計			1,767		567	40		56.54	32.08%
平均									

放流頭数	507
0%巢を除いたふ化率	32.09%

最大ふ化率	70.22%
最小ふ化率	6.55%

ふ化率	巢数	比率	卵数	比率
90%以上	0	0.00%	0	0.00%
80%以上90%未満	0	0.00%	0	0.00%
70%以上80%未満	1	6.25%	131	7.41%
60%以上70%未満	1	6.25%	96	5.43%
50%以上60%未満	3	18.75%	382	21.62%
40%以上50%未満	1	6.25%	113	6.40%
30%以上40%未満	2	12.50%	218	12.34%
20%以上30%未満	2	12.50%	190	10.75%
10%以上20%未満	1	6.25%	125	7.07%
1%以上10%未満	1	6.25%	122	6.90%
0%	4	25.00%	390	22.08%
計	16	100.00%	1,767	100.00%

区名	巢数
第1区	4
第2区	3
第3区	7
第4区	2
計	16

第14表

平成30年度 地温計測状況(第1ふ化場)

月・日	1	2	3	4	5	6	7	8	気温	表面	中央
5月1日											
5月2日											
5月3日											
5月4日											
5月5日											
5月6日											
5月7日											
5月8日											
5月9日											
5月10日											
5月11日											
5月12日											
5月13日											
5月14日											
5月15日											
5月16日											
5月17日											
5月18日											
5月19日											
5月20日											
5月21日											
5月22日											
5月23日											
5月24日											
5月25日											
5月26日											
5月27日											
5月28日											
5月29日	23.5	23.7	24.1	23.9					22.7	22.5	23.7
5月30日	23.7	24.0	24.6	24.4					21.5	22.7	23.9
5月31日	22.9	23.1	23.6	23.5					19.9	20.1	23.0
平均	23.4	23.6	24.1	23.9					21.4	21.8	23.5

※測定時間は、午前5時30分から午前6時30分の間に計測。測定の高さは、45cm。

第15表

平成30年度 地温計測状況(第1ふ化場)

月・日	1	2	3	4	5	6	7	8	気温	表面	中央
6月1日	21.6	21.8	22.3	22.3					16.9	17.1	21.8
6月2日	22.5	22.5	23.2	23.2					19.0	20.4	22.6
6月3日	23.2	23.3	24.2	24.2					19.3	21.7	23.5
6月4日	24.1	24.0	24.9	24.9					19.9	22.4	24.0
6月5日	24.7	24.8	25.6	25.4					19.8	23.3	24.7
6月6日	24.6	24.9	25.6	25.7					19.0	21.1	24.7
6月7日	23.0	23.4	23.8	23.9					20.1	20.6	23.3
6月8日	23.3	23.6	24.1	24.1					19.5	20.4	23.5
6月9日	24.1	24.4	24.9	24.9					21.9	23.2	24.3
6月10日	24.7	24.8	25.5	25.6					22.5	22.6	24.8
6月11日	23.8	24.1	24.6	24.7					21.3	21.5	24.1
6月12日	23.4	23.6	24.1	24.1					22.2	22.2	23.6
6月13日	24.8	24.6	25.1	25.1					19.9	22.7	24.4
6月14日	24.5	24.9	25.4	25.4					20.2	22.9	24.7
6月15日	25.2	25.4	26.0	26.0					22.1	24.0	25.2
6月16日	24.0	24.2	24.5	24.6					18.5	20.1	24.0
6月17日	22.7	23.0	23.3	23.4					19.1	18.8	23.0
6月18日	23.7	23.7	24.4	24.3					20.5	23.2	23.9
6月19日	22.3	22.4	22.7	22.9					19.7	19.2	22.5
6月20日	23.0	23.2	23.5	23.6					20.8	21.7	23.2
6月21日	22.4	22.5	22.5	22.6					22.2	22.2	22.5
6月22日	22.4	22.5	22.6	22.7					20.9	19.8	22.6
6月23日	23.5	23.6	23.7	23.7					20.1	21.3	23.5
6月24日	22.1	22.3	22.5	22.6					19.0	19.1	22.2
6月25日	22.8	23.0	23.2	23.3					21.7	20.9	23.0
6月26日	24.2	24.3	24.7	24.8					21.6	22.8	24.2
6月27日	25.2	25.1	25.4	25.5					23.7	25.2	25.1
6月28日	26.0	26.2	26.6	26.7					24.7	27.2	26.1
6月29日	26.9	27.1	27.4	27.5					24.1	24.7	27.1
6月30日	26.9	27.2	27.4	27.5					24.6	27.4	27.5
平均	23.9	24.0	24.5	24.5					20.8	22.0	24.0

※測定時間は、午前5時30分から午前6時30分の間に計測。測定の高さは、45cm。

第16表

平成30年度 地温計測状況(第1ふ化場)

月・日	1	2	3	4	5	6	7	8	気温	表面	中央
7月1日	27.5	27.6	28.1	28.3					25.0	26.7	27.7
7月2日	28.7	29.1	29.7	29.9					24.5	26.9	29.3
7月3日	28.5	28.7	29.2	29.3					25.3	26.8	28.5
7月4日	28.3	28.5	29.2	29.4					24.0	27.3	28.7
7月5日	28.3	28.7	29.0	29.3					23.9	26.1	28.6
7月6日	27.4	27.7	28.2	28.2					24.6	25.5	27.7
7月7日	26.6	27.0	27.4	27.3					24.0	24.5	26.9
7月8日	26.7	27.0	27.4	27.4					23.5	24.8	27.0
7月9日	27.2	27.2	27.8	27.9					23.5	26.4	27.5
7月10日	27.9	28.0	28.5	28.5					24.0	27.1	28.1
7月11日	28.7	28.9	29.3	29.4					24.9	28.2	28.8
7月12日	29.8	29.8	30.2	30.7					25.0	28.4	30.0
7月13日	28.3	28.6	29.2	29.2					24.6	25.5	28.6
7月14日	28.5	29.0	29.6	29.6					25.6	27.3	28.7
7月15日	29.6	29.9	30.5	30.6					26.3	29.2	29.8
7月16日	30.4	30.6	31.2	30.9					26.8	29.2	30.4
7月17日	30.4	30.5	31.5	31.5					27.6	30.5	30.5
7月18日	30.1	30.7	31.5	31.4					27.6	30.0	30.6
7月19日	30.6	31.0	31.7	31.6					27.1	30.2	30.8
7月20日	30.8	31.2	31.8	31.9					26.0	30.7	31.0
7月21日	30.9	31.6	32.3	32.2					26.6	30.6	31.2
7月22日	31.2	31.8	32.6	32.4					27.9	30.9	31.3
7月23日	31.4	31.8	32.9	32.8					27.2	31.2	31.4
7月24日	31.3	31.9	32.5	32.8					27.4	30.8	31.5
7月25日	31.3	31.9	32.5	32.7					28.1	31.3	31.7
7月26日	31.1	31.8	32.7	32.7					26.2	29.4	31.3
7月27日	30.4	30.8	31.3	31.5					25.4	26.7	30.6
7月28日	30.4	30.9	31.4	31.7					23.1	24.1	30.7
7月29日	28.6	28.7	28.9	29.3					25.2	26.6	28.7
7月30日	28.8	29.0	29.3	29.5					26.2	26.1	28.9
7月31日	29.6	29.8	30.0	30.3					26.5	28.4	29.8
平均	29.3	29.7	30.2	30.3					25.6	28.0	28.7

※測定時間は、午前5時30分から午前6時30分の間に計測。測定の高さは、45cm。

第17表

平成30年度 地温計測状況(第1ふ化場)

月・日	1	2	3	4	5	6	7	8	気温	表面	中央
8月1日	30.5	31.2	31.3	31.5					26.0	28.9	30.5
8月2日	30.5	31.1	31.4	31.4					27.7	30.4	30.8
8月3日	30.9	31.5	32.0	32.1					26.6	26.9	30.9
8月4日	31.7	32.1	32.4	32.4					27.6	31.0	31.6
8月5日	31.8	32.0	32.5	32.5					27.6	31.2	32.1
8月6日	31.6	32.3	32.8	32.7					27.3	31.3	32.6
8月7日	32.6	33.0	33.0	33.2					27.3	32.1	32.9
8月8日	31.6	32.0	32.2	32.6					26.1	30.3	32.1
8月9日	31.2	31.4	31.3	32.1					27.5	29.2	31.4
8月10日	31.8	31.9	32.2	32.8					27.9	31.2	32.1
8月11日	31.7	32.0	32.4	32.5					27.7	31.3	31.8
8月12日	31.8	31.9	32.2	32.7					28.1	31.4	31.8
8月13日	30.8	30.9	31.3	31.7					27.9	28.2	30.9
8月14日	31.0	31.0	31.6	31.9					27.0	26.9	31.0
8月15日	31.3	31.5	31.9	32.0					25.4	28.8	31.3
8月16日	30.4	30.5	31.0	31.2					27.1	27.5	30.5
8月17日	29.8	30.0	30.0	30.5					24.6	23.7	30.0
8月18日	29.9	29.7	30.3	30.6					24.2	27.4	30.0
8月19日	29.2	29.7	30.1	30.1					22.9	25.0	29.6
8月20日	29.4	29.5	30.0	30.2					24.7	27.2	29.5
8月21日	28.4	29.2	28.7	28.5					25.9	26.1	28.4
8月22日	30.5	30.8	30.7	31.2					27.3	27.8	30.8
8月23日	31.5	31.2	31.4	31.8					27.1	30.0	31.2
8月24日	29.5	29.4	29.9	30.2					27.5	26.3	29.2
8月25日	29.5	29.5	29.5	29.3					26.9	27.0	28.9
8月26日	29.7	29.8	29.7	30.2					26.9	27.0	29.8
8月27日											
8月28日	31.3	31.0	31.2	31.7					26.6	26.6	30.9
8月29日	30.5	30.7	30.7	31.2					27.3	29.0	30.8
8月30日	31.3	31.6	31.8	32.2					27.4	27.4	31.5
8月31日	31.3	31.4	31.9	32.0					27.3	30.2	31.3
平均	30.8	31.0	31.2	31.5					26.7	28.6	30.9

※測定時間は、午前5時30分から午前6時30分の間に計測。測定の高さは、45cm。

第18表

平成30年度 地温計測状況(第1ふ化場)

月・日	1	2	3	4	5	6	7	8	気温	表面	中央
9月1日	29.2	29.2	29.8	29.2					24.6	25.3	29.4
9月2日	28.5	28.7	29.1	29.1					23.4	23.2	27.6
9月3日	27.6	27.3	27.7	27.8					25.2	24.1	27.6
9月4日	26.6	27.4	27.7	27.8					25.2	24.1	27.6
9月5日	26.2	26.1	26.2	26.2					25.9	25.6	26.4
9月6日	27.1	27.4	26.8	27.6					25.3	25.2	27.4
9月7日	28.3	28.4	28.0	28.5					26.8	26.9	28.5
9月8日	28.4	28.6	28.6	28.8					27.1	26.2	28.6
9月9日	28.5	28.8	28.8	28.7					26.4	25.7	28.8
9月10日	28.9	29.2	28.9	29.1					24.8	25.2	29.1
9月11日	25.5	25.9	25.6	26.0					24.3	22.7	26.0
9月12日	25.5	25.7	25.5	25.8					22.7	21.0	25.7
9月13日	22.0	22.4	21.9	22.5					22.1	20.5	22.3
9月14日	25.0	25.0	24.7	25.2					23.6	22.4	25.0
9月15日	23.0	24.3	25.0	24.0					23.0	21.6	24.3
9月16日	25.1	25.2	25.2	25.3					22.5	23.0	25.2
9月17日	25.9	25.9	25.8	25.9					27.4	25.7	26.1
9月18日	27.0	26.6	26.8	27.0					25.2	25.0	27.0
9月19日	27.2	26.6	26.9	27.2					26.0	25.2	27.2
9月20日	27.8	27.5	27.3	27.7					24.5	24.6	27.8
9月21日	23.0	22.9	22.9	23.0					21.0	20.3	23.1
9月22日	23.6	23.5	23.8	24.0					22.0	21.9	23.7
9月23日	23.5	22.9	22.6	23.9					24.0	23.0	23.5
9月24日	25.8	25.8	25.8	26.0					24.1	24.9	26.0
9月25日	27.1	26.8	26.1	26.7					24.4	24.3	24.3
9月26日											
9月27日											
9月28日											
9月29日											
9月30日											
平均	26.3	26.3	26.3	26.5					24.5	23.9	26.3

※測定時間は、午前5時30分から午前6時30分の間に計測。測定の高さは、45cm。

第19表

平成30年度 地温計測状況(第1ふ化場)

月・日	1	2	3	4	5	6	7	8	気温	表面	中央
10月1日	23.5	23.4	23.4	23.6					23.9	21.8	23.5
10月2日	24.1	24.2	24.0	24.2					19.4	19.2	24.2
10月3日	23.6	23.2	23.0	23.4					18.1	17.5	23.3
10月4日	23.8	23.6	23.5	24.0					23.0	22.4	23.9
10月5日	23.6	23.5	23.6	23.9					22.5	22.4	23.9
10月6日	24.7	24.5	24.4	24.9					23.3	23.3	24.8
10月7日	26.5	26.2	26.0	26.4					25.1	25.1	26.5
10月8日	24.9	25.4	25.4	26.0					21.5	26.7	25.1
10月9日	24.5	25.4	25.3	26.0					23.4	23.0	25.1
10月10日	26.1	25.7	26.0	26.2					21.9	23.5	26.1
10月11日	24.7	24.3	24.1	24.3					20.8	20.7	24.2
10月12日	25.1	24.9	24.5	25.4					19.4	21.8	25.1
10月13日	24.1	23.9	24.0	24.1					20.5	21.7	24.1
10月14日	22.0	22.2	22.8	22.6					16.5	16.1	22.6
10月15日	19.1	18.6	18.6	19.1					18.6	18.4	19.3
10月16日	19.1	19.6	19.3	20.3					17.7	16.0	19.8
10月17日	20.1	20.6	20.1	21.1					19.0	19.2	20.9
10月18日	22.2	22.0	22.0	22.3					19.9	19.7	22.3
10月19日	22.0	21.9	21.8	21.9					19.5	19.6	22.0
10月20日	21.4	21.7	21.7	22.0					19.1	18.2	21.8
10月21日											
10月22日	22.0	21.7	21.3	21.7					16.8	6.4	22.0
10月23日	20.9	19.9	19.7	19.9					18.6	18.4	20.7
10月24日	21.6	21.1	21.4	21.5					17.4	17.0	21.5
10月25日	22.3	22.0	22.2	22.4					19.6	19.1	22.3
10月26日	22.5	22.3	22.6	22.7					18.1	19.7	22.6
10月27日	19.9	20.2	20.1	20.1					19.6	19.6	19.5
10月28日	19.5	19.7	20.4	19.8					15.3	13.0	20.2
10月29日	19.2	18.5	18.7	18.6					14.7	13.4	18.7
10月30日	19.4	19.2	18.9	19.1					15.0	13.1	19.0
10月31日											
平均	22.5	22.4	22.4	22.7					19.6	19.2	22.6

※測定時間は、午前5時30分から午前6時30分の間に計測。測定の高さは、45cm。



1 H30.8.3 初ふ化 7頭



2 H30.9.11 御前崎小学校子ガメ引渡し式



3 H30.11.20 ふ化場卵掘り起こし



4 H30.3.7 視察研修(名古屋港水族館)



5 H30.3.7 視察研修(名古屋港水族館)

写真7 御前崎のウミガメ及びその産卵地保護事業の様子2

平成 30 年度 御前崎のウミガメ産卵観察会事業報告書

アカウミガメ産卵観察会は、御前崎の貴重な文化財である自然動物のアカウミガメや、その保護活動をPRすることにより生命の尊さや自然保護、環境保護の意識の高揚を図ることを目的に行っている。

期 日 : 7月22日(日)～7月29日(日) 8日間で1日 実施
 会 場 : ウミガメふ化場・御前崎海岸(通称:下岬海岸)
 参加者数 : 延べ94人
 備 考 : 27日に上陸・産卵が1頭。

第 20 表 アカウミガメ産卵観察会実績表

確認日	時間 20:00～	曜日	天候	上陸 場所	産卵 個数	発見 時間	甲長	甲幅	参加 人数	備 考
7月22日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月23日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月24日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月25日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月26日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月27日	22:10	金	曇	アカガネ	96	20:55	76.5	57	94人	上陸・産卵
7月28日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月29日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



写真8 アカウミガメふ化場での待機風景



写真9 上陸したアカウミガメ産卵産卵風景

平成 30 年度 御前崎のウミガメ放流観察会事業報告書

アカウミガメ放流観察会は、子ガメを通じて保護活動をPRすることにより、御前崎の貴重な文化財であるアカウミガメを広く知ってもらい、生命の尊さや自然保護、環境保護の意識の高揚を図る目的で行っている。

第21表 一般放流観察会

放流日	曜日	天候	放流頭数	放流場所	参加人数	備考
8月24日	金	台風20号の通過に伴い中止				
8月25日	土	台風20号の通過に伴い中止				
8月26日	日	晴れ	32頭	下岬海岸	165人	

第22表 団体放流観察会

放流日	曜日	天候	放流頭数	放流場所	参加人数	団体名
8月10日	金	晴	ふ化無し中止	-	-	さくらこども園
8月17日	金	晴	ふ化無し中止	-	-	御前崎スマイルプロジェクト
8月18日	土	晴	ふ化無し中止	-	-	黒潮サッカースポーツ少年団
8月23日	木	雨	荒天中止	-	-	北こども園



写真10 ウミガメ放流観察会の説明と放流風景



写真11 ウミガメ放流観察会での放流風景

4 「御前崎のウミガメ及びその産卵地」の現状変更

現状変更箇所の地番 御前崎市御前崎地先
 許可申請者の名称 静岡県知事 川勝 平太
 事務所の所在地 静岡市葵区追手町9番6号
 着手及び終了の時期 【第1期】平成30年4月20日から平成30年7月6日
 【第2期】平成30年10月20日から平成31年1月31日
 施行者の氏名 静岡県袋井土木事務所長
 施工者の住所 静岡県袋井市山名町2番1号

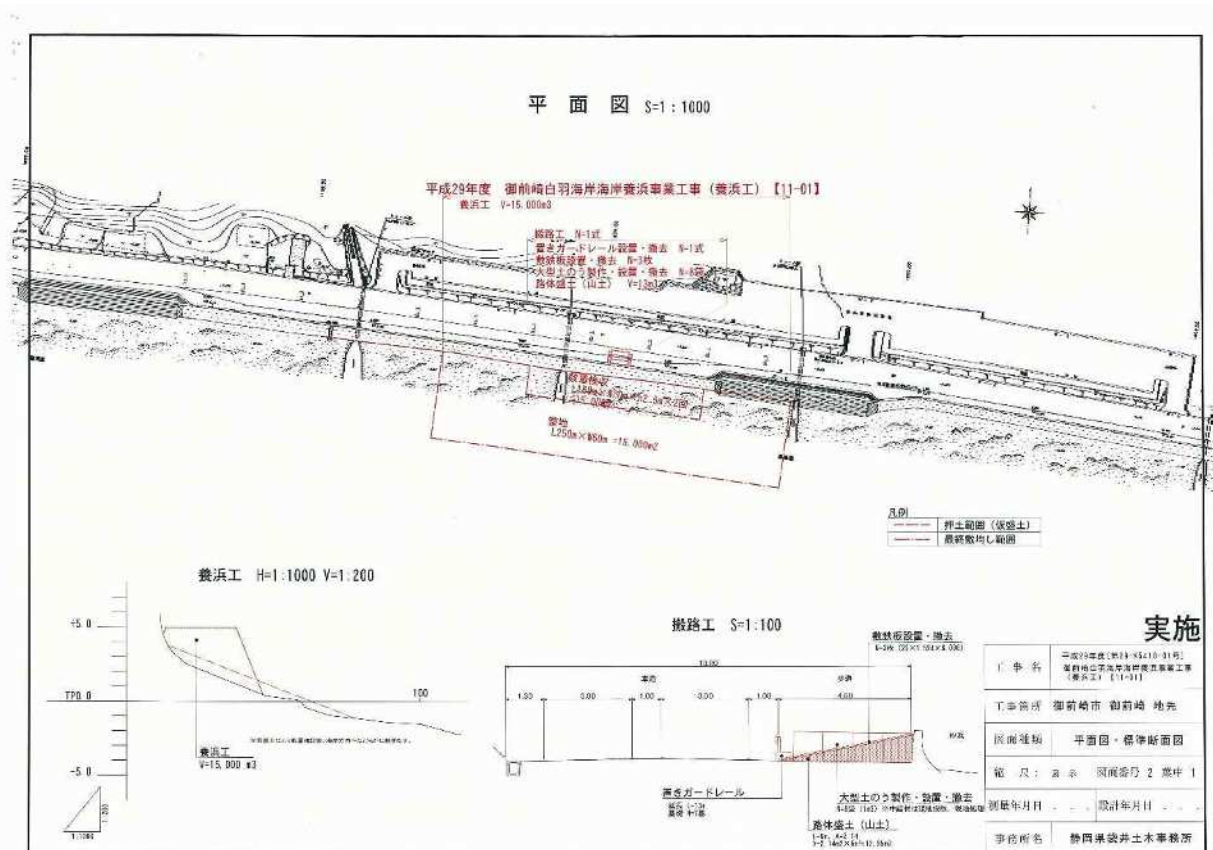
(1) 現状変更等の内容及び実施の方法

①第1期工事

砂浜の浸食対策としてマリパーク御前崎内の浚渫砂及び中部電力株式会社浜岡原子力発電所造成工事発生砂を、ウミガメ巡視区域の指定箇所である3区の区域内に養浜 (V=9,000m³) した。ダンプトラックにより土砂を海岸へ直接投入し、その後、ブルドーザーにより周辺地形と調和するようになだらかに敷き均した。



第9図 第1期工事運搬経路図



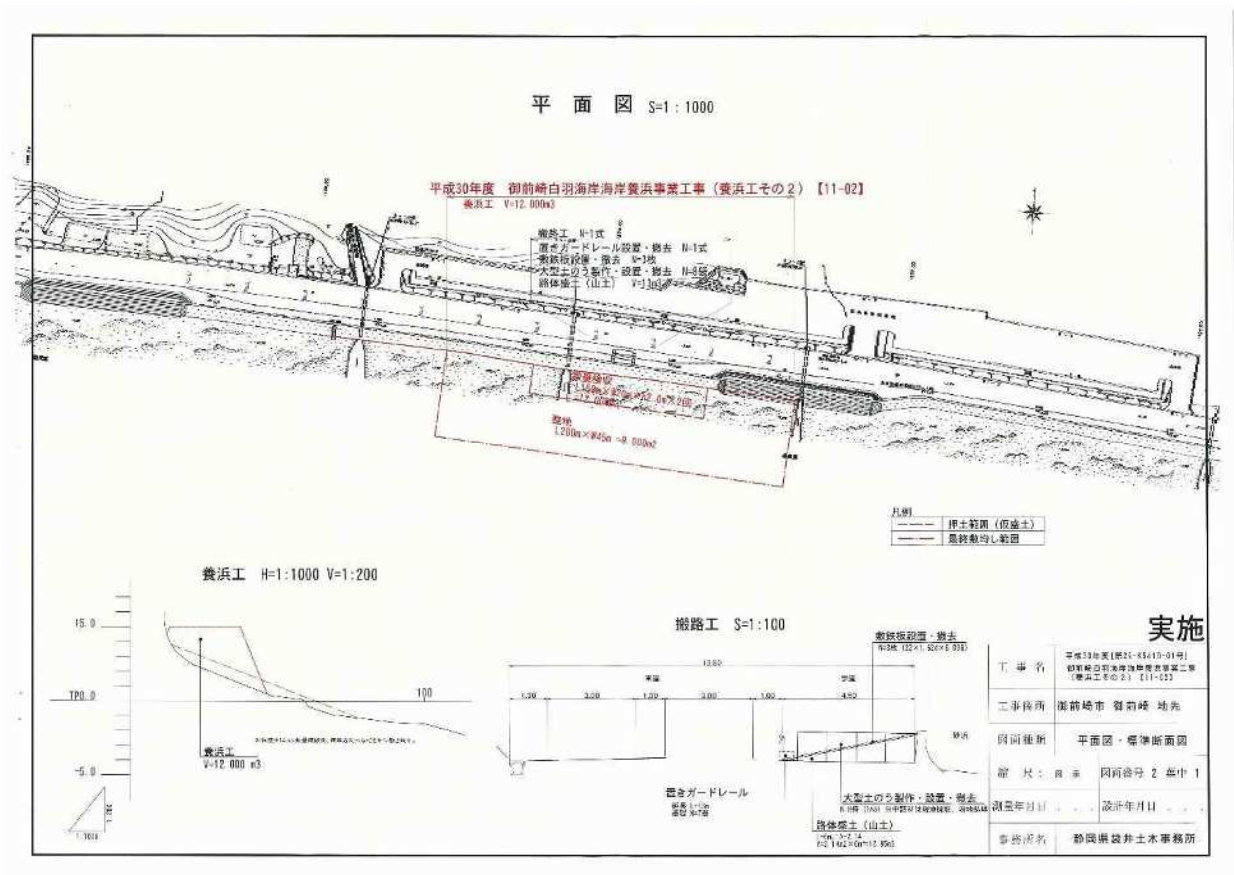
第10図 【第1期】平成30年度御前崎白羽海岸海岸養浜事業工事(養浜工)平面図

②第2期工事

砂浜の浸食対策として二級河川筧川河口の浚渫した砂及び中部電力株式会社浜岡原子力発電所造成工事発生砂を、ウミガメ巡視区域の指定箇所である3区の区域内に養浜 (V=9,700m³) した。ダンプトラックにより土砂を海岸へ直接投入し、その後、ブルドーザーにより周辺地形と調和するようになだらかに敷き均した。



第11図 第2期工事運搬経路図



第12図 【第2期】平成30年度御前崎白羽海岸海岸養浜事業工事(養浜工)平面図

(4) ウミガメ保護活動のまとめ

御前崎のウミガメ保護活動は、昭和 47 年に旧御前崎町教育委員会がウミガメ保護監視員を委嘱してから本格的な活動が始まった。その後、昭和 52 年に県の天然記念物に、昭和 55 年には国の天然記念物に指定された。平成 20 年度からは同じ御前崎市内のウミガメを保護する目的として、浜岡海岸のウミガメについても、ウミガメ保護監視員による保護活動を開始した。現在は、御前崎市教育委員会から委嘱された 8 名のウミガメ保護監視員が保護活動を継続している。

平成 26 年 4 月 1 日からは、アカウミガメが指定希少野生動植物に追加指定されるなど、保護活動のより一層の充実が求められる。

平成 30 年度におけるウミガメの上陸頭数・産卵個数は、例年より著しく少ない結果となった。そのため産卵観察会を海岸環境保護により 8 日間から 3 日間に変更した。さらに天候不良により 1 日のみの実施となってしまった。また、放流観察会についてもふ化が見込めず日数を変更し 1 日のみの実施となった。御前崎の自然も年々変化し、海岸（産卵場所）のゴミ問題や砂浜の減少等、ウミガメの上陸・産卵にとっては厳しい状況であることに変わりはない。

ウミガメが安心して産卵できる環境を整えるため海岸清掃や産卵地の巡視を実施するとともに、静岡県による養浜工が継続して行われている。しかし、風や波の影響で海岸が侵食され続けているのが、御前崎の産卵地における現状といえる。

ウミガメの種を保存していくことを第一に考えつつ、ウミガメから御前崎の自然や文化を伝達し、命の大切さや思いやりの心を少しでも多くの人たちに感じてもらえるように活動していきたい。

ウミガメ保護監視員等への励まし、貴重な御意見・御指導いただいた多くの方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

これからもウミガメ保護活動にあたたかい御支援・御協力をお願いいたします。



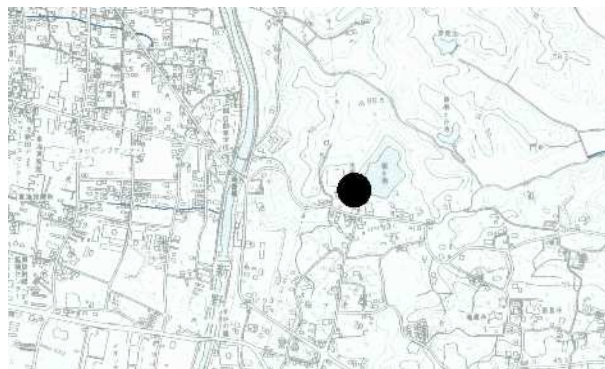
写真 12 御前崎のウミガメ及びその産卵地

2 県指定名勝「桜ヶ池」松伐採の現状変更

県指定無形民俗文化財「桜ヶ池」の社務所横の松の木に松喰い虫と白蟻が入って枯れてしまい、社務所や手水社などの池宮神社の建物に倒れる恐れがあることから、造園業者に委託して根元から伐採して、細かく裁断したうえで処分するための現状変更許可申請書の提出が、宗教法人 池宮神社 代表者 佐倉東武氏よりあった。

「県指定史跡名勝天然記念物現状変更等許可申請書」は、平成30年6月7日付で御前崎市教育委員会に提出された。静岡県文化財保護条例施行規則第31条第6号の木竹の伐採(危険防止のために必要な伐採に限る)に該当すると判断された。そのため、平成30年7月3日付御教社第74号で、県指定名勝「桜ヶ池」の現状変更が許可されたことから、御前崎市教育委員会から宗教法人 池宮神社 代表者 佐倉東武宛に通知した。

平成30年7月23日に枯れた松の伐採と裁断及び処分が実施され、平成30年7月24日に現状変更終了届が御前崎市教育委員会教育長に提出された。



第13図 桜ヶ池の位置(1/25,000)



1 伐採前の枯れた松



2 枯れた松の損傷箇所

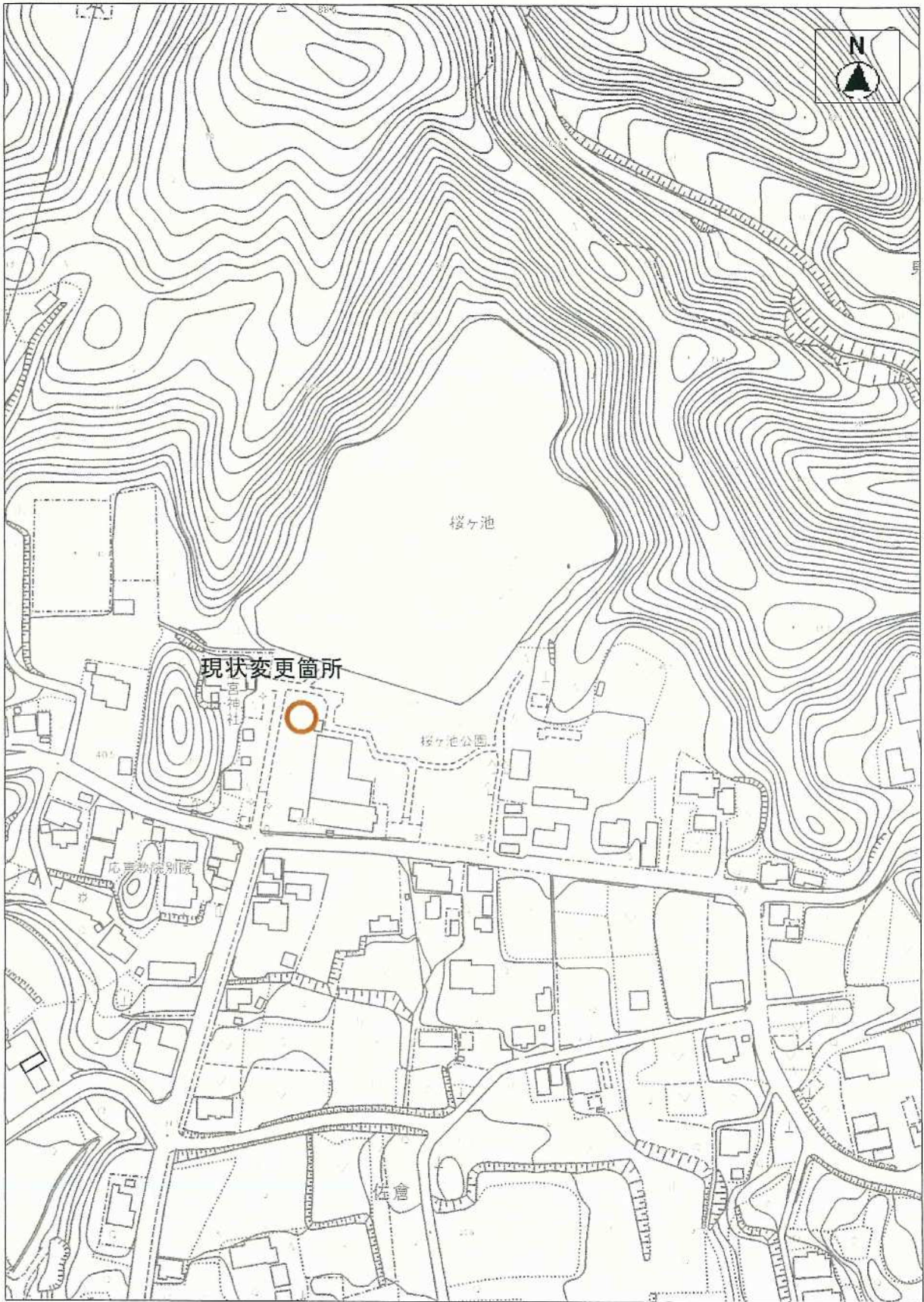


3 枯れた松の伐採風景



4 枯れた松の伐採後の切株

写真13 桜ヶ池の現状変更写真(枯れた松の伐採)



第 14 図 県指定名勝「桜ヶ池」現状変更箇所位置図

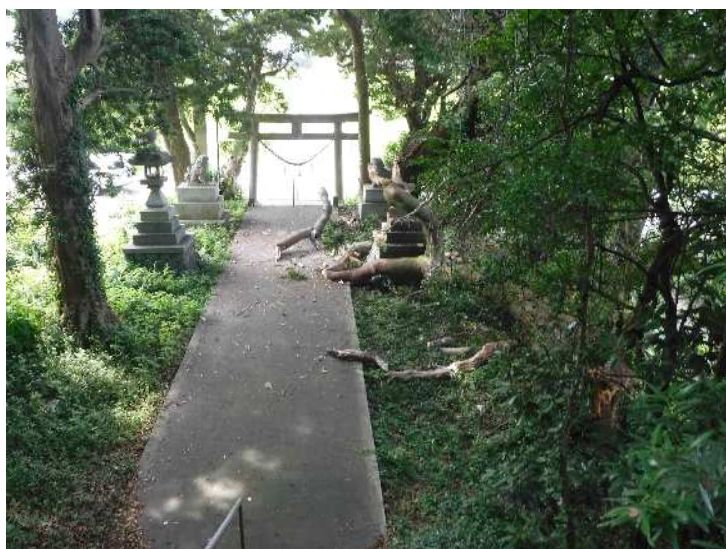
3 県指定天然記念物「比木賀茂神社社叢」の損傷及び維持の措置

平成 30 年 7 月 22 日に賀茂神社の関係者から賀茂神社の石段東側にあるホルトノキの(大径木 No. 8)の幹が根元から折れて倒れ、近くにあった石灯籠を破損したとの連絡があった。ホルトノキの幹の内部が枯れて脆くなっていたことが原因と思われる。

そのため、平成 30 年 7 月 30 日に県指定文化財損傷届を静岡県教育委員会に提出し、維持の措置として専門の業者に委託し、大径木 No. 8 のホルトノキの幹や枝の除去を実施した。

また、平成 30 年 7 月 28 日に台風第 12 号の影響で、比木賀茂神社社叢を分断するように通っている市道勝佐行僧原線沿いの 5 本位の樹木と駐車場北側にある調整地周辺の樹木の枝が 5 本位折れて倒れている状況が、平成 30 年 7 月 30 日に確認された。

そのため、平成 30 年 8 月 9 日に県指定文化財損傷届を静岡県教育委員会に提出し、維持の措置として専門の業者に委託し、市道勝佐行僧原線沿いの 5 本位の樹木の除去を実施した。駐車場北側の調整池内の 5 本位の樹木の枝の除去については、予算の関係から翌年度に行うこととした。



1 大径木 No.8 ホルトノキの倒木状況 1



2 大径木 No.8 ホルトノキの倒木状況 2



3 大径木 No.8 ホルトノキの倒木状況 3



4 大径木 No. 8 ホルトノキの倒木状況 4

写真 14 比木賀茂神社社叢大径木 No.8 ホルトノキの倒木状況



1 大径木 No.8 ルトノキの玉切り作業



2 大径木 No.8 ホルトノキの玉掛け作業



3 大径木 No.8 ホルトノキの積込撤去作業



4 大径木 No.8 ホルトノキの倒木除去完了後の様子



5 市道勝佐行僧原線沿いの5本位の樹木の倒木状況



6 駐車場北側の調整池の木の枝の倒木状況

写真 15 比木賀茂神社社叢大径木 No.8 ホルトノキの倒木除去作業及び台風 12 号による損傷樹木の状況

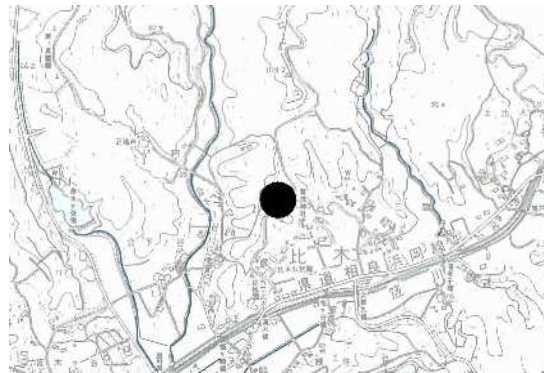
4 県指定天然記念物「比木賀茂神社社叢」樹幹崩壊危険樹および枯死樹等調査

(1) 調査に至る経緯

御前崎市比木地区にある賀茂神社の鎮守の森は、7百年から8百年も自然のままに保護されてきた。このような森を極相林といい、県内でも貴重な森である。

しかし、賀茂神社の本殿や社務所などの建物周辺に、樹幹崩壊危険樹や枯れ死樹等がみられ、倒壊した際に建物への被害が懸念された。

そのため、平成31年3月19日に樹木の専門家で組織された特定非営利活動法人「郷里の自然を育む会」の樹木医である芹澤節夫氏に依頼して、比木賀茂神社社叢の樹幹崩壊危険樹および枯死樹等について調査を実施していただいた。その調査結果は以下のとおりである。



第15図 比木賀茂神社社叢の位置(1/25,000)

(2) 御前崎市指定天然記念物「いちょうの木」樹勢現況及び衰退要因等解析調査報告書



賀茂神社社叢入り口

天然記念物指定 (1997年 3月 17日)
所在地：御前崎市比木 2815 番地
所有者：宗教法人 賀茂神社
管理団体：御前崎市
担当：御前崎市教育委員会社会教育課

1.周辺環境概要



牧之原台地北側(比木台地)の南端に位置し、中央の賀茂神社に隣接して左に貴布神社、左側の山手に奥沢神社、石段を下がって右手に津島神社があり、境内右側のスダジイの大木が御神木とされている。

2.樹冠投影図(御神木)



3. 社務所および神社隣接樹の概況

(1) 賀茂神社社務所



社務所南側 2.0mに位置するスダジイ(矢印)の樹幹の状況



樹高	樹幹のみ 5.3m
	枝先まで 13.0m
胸高直径	0.87m

樹幹内部は腐朽崩落して空洞となっており、に伸びる枝への支持力は顕著に劣る。風圧り樹幹を含めて崩壊し、社務所や手水舎損壊の懸念がある。

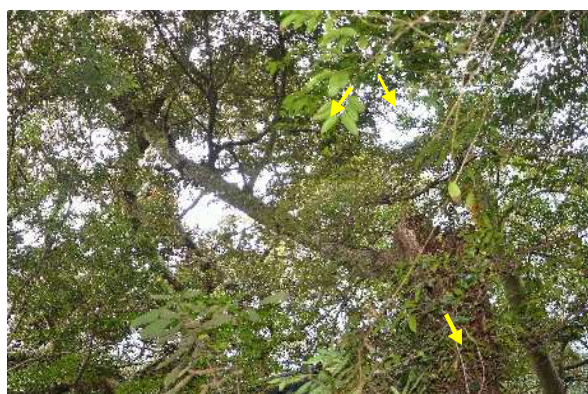
(2) 津島神社



神社の北西2.5mに位置するスダジイ(矢印)の樹幹の状況

樹高	樹幹のみ 4.4m
	枝先まで 8.0m
胸高直径	0.71m

樹幹の損傷が激しく、また、張り出している太枝は神社の屋根に掛かっており、崩落の危険がある。



南西から撮影

(3) 賀茂神社、貴布神社



本殿の北側



東側



南側

隣接樹に倒壊が懸念される樹木はないが、屋根に枝が張り出しており軒を擦るので剪徐、整枝が望ましい。

(4) 奥沢神社



北西側に倒木があるが、建物への影響は無い。



神社東側 3.6mの位置に樹種不明の枯死樹があり、切除する。

4. 土壤環境

表層は細礫を含む埴壤土で 20 cm以下はシルト質埴土～重埴土、pH は4 台で酸性がやや強い。表層は腐植に覆われているが、土色は深さ 20 cm付近から淡灰白色を帯びており、腐植酸や硫酸イオンなどにより Fe, Al, Mn などが溶脱し灰白土化している。弱酸性～中性を好むシイノキにはどちらかと言えば適していない。



社背林樹木に板根が多く見られる。エノキなどは板根が発達し易いが、シイノキも状況次第では板根が発達する。通常、板根を発達させない樹種に板根が見られるときは、その根が土中深くに伸び遠くへは広がっていないか、あるいは日常的に風荷重を強く受けていることを示す。

逆に、広葉樹の根元が均等に広がっているときは、根は比較的浅く、日常的な風荷重もそう強くはないことを示す。

樹高	樹幹のみ 11.0m
胸高直径	0.58m





多くの樹種が、灰白色化した固い埴土(粘土)を掴んで生長している。



一の鳥居と灯籠を経て右側にある

5. そのほか



一の鳥居、灯籠を経て左側のシラカシ衰退樹。葉量は減少～ほぼすべて落葉し、小葉化、小枝の叢生が認められる。



左写真の矢印部分拡大



前頁シラカシに隣接していたホルトノキの枯死株 森林総研.平成12年度研究成果選集2000
樹木ファイトプラズマ病の遺伝子診断法より転載

近年、衰退し倒壊したとされるホルトノキの枯死株の近くで、ホルトノキ萎黄病に類似する症状のシラカシを認めたので、写真を掲載し記録として残すとともに、萎黄病について既知の情報を記載しておく。

日本国内では1999年にホルトノキにファイトプラズマによる病害が報告され、萎黄病と命名された(河辺ら, 1999)。ファイトプラズマは、細菌の一種であるが代謝系の一部の遺伝子を欠くため宿主植物の代謝に依存し、篩部組織中に絶対寄生する。細胞壁を持たず、小型不定形なので形態的特徴が乏しく形態では分類できないため、DNAの塩基配列を用いた遺伝子診断がなされる。現在までに検出されたファイトプラズマは2種類に識別され、ホルトノキ衰弱枯死被害には2種のファイトプラズマが関連していることが明らかにされている(森林総研.平成12年度研究成果選集2000)。

ファイトプラズマの種と媒介昆虫の種とのあいだの種間関係(宿主特異性)は強いが、ファイトプラズマの種は、植物に対しては多犯性である。一般的なファイトプラズマ病ではヨコバイ類などの吸汁性昆虫が関与し、その成虫が葉や茎にとまって樹液を吸おうとしたときに、篩部組織内にファイトプラズマを感染させることが知られている。

乾燥等の土壌環境、水分ストレス、強風などが発病・進展の誘因として働く可能性があるが、必ずしも悪条件でないとと思われる環境でも発症し枯死に至る事例もあり、通常の感染症よりも進行が遅く、衰退病と位置づけられる。

症状は、葉の黄化、葉の小型化、節間の詰まり、着葉数の減少などが、樹冠の一部ないし全身に現れる。これらの病徴が持続し、樹全体で次第に衰退の程度を増していき事例にもよるが5年～10年以内に衰退し枯死に至る。

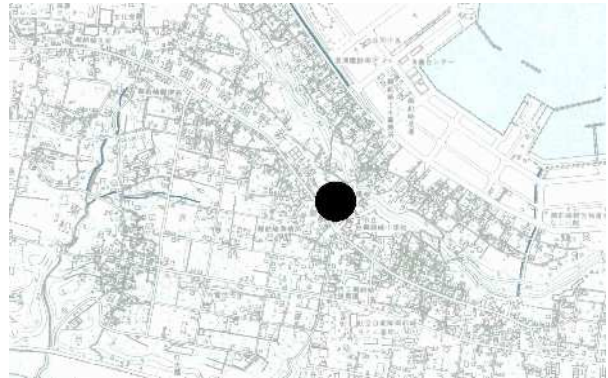
抗生物質である硫酸オキシテトラサイクリンを樹幹注入する方法が試行されてきたが、症状の進行を止めたり若干の改善効果はあるものの、効果は限定的であり、防除費用が高くなるうえ、農薬登録もなされていない。本処理の副作用として穿孔部周辺の辺材部に水分通導障害を引き起こすことがあり、繰り返しの施用はできない。よっていまのところ病原ファイトプラズマを駆除することは困難とされる。

6. まとめ

社叢は神の聖域であり鬱蒼とした雰囲気をご関係者は多いが、社会環境の変化により薄暗い藪蚊が多い場所として一般的には避ける傾向があります。自然の推移を見守る社叢として稀有な事例であり貴重ですが、建造物に及ぼす隣接樹の影響は早期に取除き、明るい雰囲気の内側の維持が望まれます。また、標本樹を選抜して定期的に調査すると、隆盛と衰退の経緯が分かりいっそう興味深い資料が得られるでしょう。

5 市指定天然記念物「いちょうの木」製枝及び倒木回避の現状変更

海福寺に所在している御前崎市指定天然記念物「いちょうの木」は、樹冠上部に大きな損傷があり、それ以外にも強風による折損箇所から腐朽箇所が多く見られる。また、新たに樹幹の南北に亀裂が生じており、幹裂けの危険がある。さらに、傾斜が大きくなったことで、支持力が低下し、倒木の危険もでてきたことから、早急に製枝と本堂への倒木回避工事を実施したいため、所有者である海副寺の代表役員松井明紀より、史跡名勝天然記念物現状変更許可の申請が平成30年6月27日にあった。



第16図 いちょうの木の位置(1/25,000)

現状変更等の内容及び実施方法は、2010年に設置した養生加工物(タイベックス+金網)を撤去処分し、いちょうの木の樹冠上部を製枝し荷重を減らし、本堂側に倒れないように16m/mワイヤーロープを設置し、その後、新たに養生加工物を設置して、いちょうの木の養生を行う方法である。

樹冠上部を製枝して荷重を減らしたり、ワイヤーロープを設置したりすることから、景観の変化は否めないが、幹割れや倒木の危険を防ぐために必要な措置であるため、現状変更が許可された。

そして、平成30年7月31日～平成30年8月24日までに、いちょうの木の製枝及び倒木回避の現状変更が実施され、平成30年9月11日に現状変更終了届が御前崎市教育委員会教育長に提出された。



写真16 現状変更前のいちょうの木
(H30.7.27撮影)



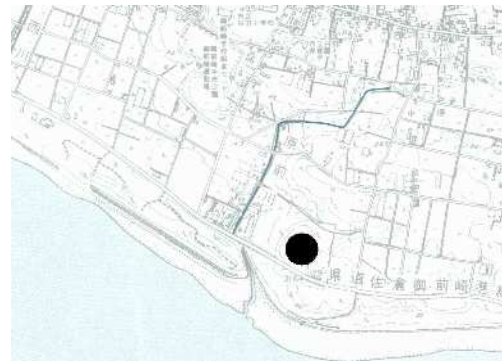
写真17 現状変更後のいちょうの木
(H30.9.5撮影)

6 文化財看板の新設・修繕工事等

(1) 萬葉の歌碑等誘導看板支柱及び解説看板の修繕工事

- 1 施工年月日 平成31年3月25・26日
- 2 施工場所 御前崎市白羽字西尾高 6852-2
- 3 施工業者 総合看板ジャスト
- 4 施工理由

萬葉の歌碑解説看板の下部表示板の字が薄くなって読みにくくなったため、表示面を交換する修繕工事を実施した。また、萬葉の歌碑入口の「萬葉の歌碑・白羽の風蝕礫産地誘導看板」の支柱が劣化してきたため塗装した。



第17図 萬葉の歌碑の位置(1/25,000)



写真18 萬葉歌碑解説看板修繕後



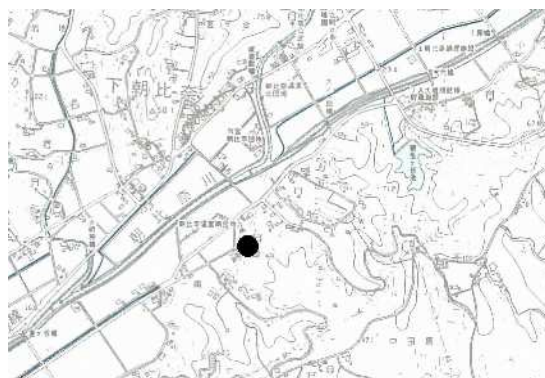
写真19 萬葉歌碑等誘導看板の支柱修繕後

(2) 旧妙音庵薬師堂看板の修繕工事

- 1 施工年月日 平成31年2月14日
- 2 施工場所 御前崎市下朝比奈 1739番地
- 3 施工業者 総合看板ジャスト
- 4 施工理由

取替前の説明看板は、御前崎市が誕生したばかりの平成16年度に設置されたもので、設置されてから15年近く経過しているため、表示面の劣化が進んで、ひび割れてしまっていた。

また、説明看板に附指定の薬師三尊十二神将の説明がなかったことから、新たに表紙面を作成して取替工事を実施した。



第18図 旧妙音庵薬師堂の位置(1/25,000)



写真20 旧妙音庵薬師堂と旧看板



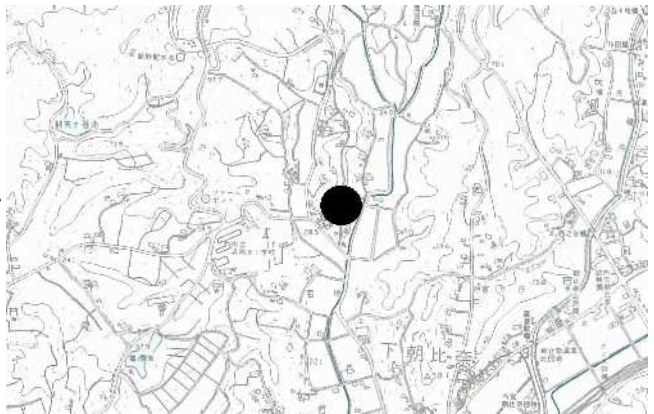
写真21 旧妙音庵薬師堂看板(左:旧看板・右:新看板)



7 文化財防火デー

昭和24年1月26日に、法隆寺(奈良県斑鳩町)の金堂が炎上し、壁画が焼損したことから、この日が「文化財防火デー」と定められた。貴重な文化財を火災や震災などから守るため、この日を中心にして全国各地で、文化財の防火訓練が行われ、国民の文化財愛護意識の高揚が図られている。

御前崎市でも平成30年1月19日に、市指定有形文化財「岩地正八幡神社本殿」の境内地において、消防本部、消防署、地元消防団、岩地正八幡神社関係者及び市文化財保護審議会委員などが参加して放水訓練等が実施された。



第19図 岩地正八幡神社本殿の位置(1/25,000)



1 消防署職員と消防団員による放水訓練



2 消火器の使用訓練

写真22 岩地正八幡神社本殿の消防訓練風景

8 御前崎市文化財保護審議会

御前崎市文化財保護審議会は、平成16年4月1日に施行された「御前崎市文化財保護条例」及び「御前崎市文化財保護審議会条例」に基づき同年4月に設置された。同会は教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査・審議し、これらの事項に関して教育委員会に答申することを目的とする。

(1) 委員の構成（任期：平成30年4月1日～令和2年3月31日）

役職名	氏名	就任年月日	地区
会長	清水 芳治	H30. 4. 1 (H24. 4. 1)	佐倉
副会長	齋藤 正敏	H30. 4. 1 (H21. 4. 1)	白羽
委員	大須賀 春爾	H30. 4. 1 (H3. 4. 1)	御前崎
委員	中山 貞雄	H30. 4. 1 (H16. 4. 1)	白羽
委員	増田 竹雄	H30. 4. 1 (H24. 4. 1)	御前崎
委員	清水 富夫	H30. 4. 1 (H24. 4. 1)	池新田
委員	橋本 益利	H30. 4. 1 (H24. 4. 1)	比木
委員	渥美 周逸	H30. 4. 1 (H25. 4. 1)	新野
委員	河原崎 尚己知	H30. 4. 1	朝比奈

*就任年月日の（ ）は、旧町からの初就任年月日を示す

(2) 第1回文化財保護審議会

日時 平成30年7月27日（金） 13:30～15:00

場所 御前崎市役所3階 301会議室

- 議事
- ① 委嘱状交付
 - ② 正・副会長選出
 - ③ 平成29年度文化財保護事業報告について
 - ④ 平成30年度文化財保護事業計画について
 - ⑤ 視察研修について(御前崎灯台等の国登録文化財に向けての調査について)
 - ⑥ その他

(3) 文化財保護審議会視察研修

視察研修は、文化財保護の研究・活用及び委員として必要な知識や資質向上を目的として行っている。本年度は、御前崎市の桜ヶ池のお櫃納めの伝説などを通じて関係の深い、長野県諏訪市の博物館や指定文化財等を視察した。

日程 平成30年10月16日（火）

視察先 諏訪市博物館・諏訪大社上社本宮・高島城跡



1 諏訪市博物館学芸員による説明



2 諏訪市博物館館内の視察風景



3 諏訪市大社上社本宮の視察風景 1



4 諏訪市大社上社本宮の視察風景 2



5 高島城跡の視察風景 1



6 高島城跡の視察風景 2

写真 23 文化財保護審議会視察研修

Ⅲ 文化財活用啓発活動

1 埋蔵文化財出張授業

埋蔵文化財出張授業は開催希望があった小・中学校や公民館などに訪問して下表のような体験学習を中心としたカリキュラムを実施し、市民に埋蔵文化財を見て、触れて、体験してもらい、身近にある文化財についての理解と愛護精神の高揚を図るとともに、郷土の誇りを育てることを目的として開催した。

平成30年度は、浜岡東小学校 PTA より埋蔵文化財出張授業の開催依頼があり、「東っ子まつり」において勾玉づくり体験と昔の火起こし体験の講座を平成30年8月4日の午前中に開催した。当日は、浜岡東小学校の児童やその父兄が来場し、勾玉づくり体験を23名の方が、昔の火起こし体験を14名の方が参加した。



1 『東っ子まつり』会場の様子



2 勾玉づくり・昔の火起こしコーナー会場



3 昔の火起こしの体験の様子



4 勾玉づくりの体験の様子

写真 24 『東っ子まつり』における埋蔵文化財出張授業

2 市内イベントにおける埋蔵文化財体験学習ブースの開設

(1) 御前崎市大産業まつりにおける埋蔵文化財体験学習

① 日 時 平成 30 年 11 月 24 日(土)・25 日(日)

② 場 所 御前崎市役所西側通路

教育委員会社会教育課では、身近にある文化財についての理解と愛護精神の高揚を図るとともに、郷土の誇りを育むことを目的として、御前崎市大産業まつりにおいて「原始工房 縄文屋」という名称で昔の火起こし体験、勾玉づくり体験ができるコーナーを開設した。

今年度は 11 月 24 日(土)と 25 日(日)の 2 日間の開催とした。昔の火起こし体験は 1 日目が 64 名、2 日目が 97 名の合計 161 名、勾玉づくり体験が 1 日目が 40 名、2 日目が 24 名の合計 64 名の子供や親子の参加が得られた。また、今年は直虎応援プロジェクト事業のブースも隣に出店したことから、原子工房縄文屋のブースでもそれに関連し『井伊家を救った武将 新野左馬助の足跡』と『新野左馬助公の御人格を偲びて』を販売した。



1 原始工房縄文屋ブース



2 火起こし体験風景



3 火起こし体験風景



4 勾玉づくり体験風景

写真 25 御前崎市大産業まつり「原始工房 縄文屋」ブース

3 薩田ヶ谷横穴群親子見学会の開催

- 1 事業名 平成30年度 文化財保護事業 御前崎市指定史跡 薩田ヶ谷横穴群親子見学会
- 2 日時 平成31年1月25日(土) 10時00分～12時00分
- 3 集合場所 浜岡東小学校第2駐車場(西側駐車場)
- 4 参加者数 2組4名(第1小学校5年生と母親・浜岡東小学校6年生と祖父)
- 5 協力団体 宮内倶楽部(当日参加者4名)

平成30年度に、地元の宮内倶楽部の協力により、御前崎市指定史跡「薩田ヶ谷横穴群」に薩田ヶ谷方面から行くための遊歩道が整備されたことから、今年度初めて市内の小学校5・6年生を対象とした親子見学会を開催した。

最初に本日の親子見学会の概要と、宮内倶楽部の会員の紹介などを行った後、薩田ヶ谷横穴群から出土した勾玉などの玉類や須恵器、土師器、耳環などについて説明した。

その後、浜岡東小学校の第2駐車場から現地まで徒歩で移動した。現地では、横穴群の構造や年代、墓前域の構造、横穴の構築された順番などを説明した後、各自で自由に見学した。



写真 26 薩田ヶ谷横穴群親子見学会の風景 1



写真 27 薩田ヶ谷横穴群親子見学会の風景 2



写真 28 薩田ヶ谷横穴群親子見学会の風景 3



写真 29 薩田ヶ谷横穴群親子見学会の風景 4

4 御前崎市文化財講座

① 朝比奈地区文化財講座の概要

御前崎市内には、古墳、横穴、中世城館や墓地などの埋蔵文化財や建造物、彫刻、絵画、史跡名勝天然記念物などの指定文化財が数多くある。

これらの御前崎市内の文化財を活用し、御前崎市民の文化財に対する理解を深めるお手伝いをするため「御前崎市文化財講座」を開設した。

今年度は、朝比奈地区を対象とした文化財講座を開催した。下表のとおり、朝比奈地区の城館についての講演会と、御前崎市のバスを利用した文化財めぐりを年間2回講座で実施した。詳細については下記のとおりである。

② 朝比奈地区文化財講座の内容

- 会 場 朝比奈公民館1階研修室 ○ 受講生数 28名
- 講座内容

回数	開催日時	参加人数	テーマ	講師
第1回	10月12日(金) 13:30~15:30	24名	講演「朝比奈地区の城館について」(仮題)	静岡古城研究会 会長 水野茂氏
第2回	10月27日(土) 13:00~16:00	25名	朝比奈地区の指定文化財の仏像・神像巡り	静岡大学 教育学部教授 大宮康男氏

○第2回講座の午前中に予定していた朝比奈地区の城館巡り(講師:水野茂氏)については雨天中止。

○文化財巡りコース 朝比奈公民館→大日寺の大日如来座像→岩地正八幡神社神像→旧妙音庵薬師堂の薬師三尊十二神将→玄翁堂の木造十一面観音菩薩像→朝比奈公民館



1 文化財講座講演会の講師:水野茂氏



2 文化財講座の講演会の様子



1 管理者による大日寺の大日如来座像の説明



2 大宮教授による大日寺の大日如来座像の解説



3 管理者による岩地正八幡神社神像の説明



4 旧妙音庵薬師堂の薬師三尊十二神将の見学



5 玄翁堂の木造十一面観音菩薩像の説明



6 玄翁堂の木造十一面観音菩薩像の見学

写真 31 御前崎市文化財講座の朝比奈地区の仏像・神像めぐり

5 御前崎市指定有形文化財「本間家文書展」

本間家文書は、池新田村を立村し、代々池新田村の大庄屋や庄屋を勤めた本間家に伝わる古文書である。平成30年5月26日に本間家文書の所有者より、歴史資料として御前崎市教育委員会に御前崎市指定文化財である15点の古文書を含む合計67点の古文書等の寄託があったことから、それを記念して指定文化財の15点の古文書を中心とした企画展を平成31年3月14日から3月31日にかけて、御前崎市立図書館アスパル2階展示室にて開催した。

なお、展示の解説資料を作成して無料で配布するとともに今後の企画展の参考とするため、見学者にアンケートを依頼した。

①展示内容

今回の展示では、以下の3つの大テーマを設定して、御前崎市指定文化財の15点の古文書(次頁)とともに、本間家の家系図や秣場関係の古文書や絵図などを展示して本間家文書を紹介することにより、高天神城の戦いや池新田の立村、秣場の争いなどの中世から近世にかけてのこの地域の歴史を知る機会を提供することを目的として展示を行った。

ア 中世以前の本間氏

『本間系図』や『高天神記』から見る本間氏の出自や丸尾家との関係、武田・徳川両氏に高天神城争奪戦と本間・丸尾兄弟の討死などについて解説パネルと高天神城の写真(3枚)、本間家文書NO.1からNo.5を展示し解説した。

イ 池新田村の開発と市指定文化財「本間家文書」

大石宗兵衛久末とその婿養子となった本間想兵衛清光による池新田の開発や立村についての解説パネルとともに本間家文書No.6、No.9、No.10、No.11、No.12を展示し解説した。

ウ 池新田置目事と秣場の争い

慶長12年に横須賀藩の重臣4名の連署により発給された本間家文書No.7の『池新田置目事』で近隣5ヶ村の「秣場」での草や薪の採取が認められたことによる、近隣の村むらとの秣場を巡る争いについての解説パネルとともに文書家文書No.7、No.8、No.14、NO.15を展示して解説した。

平成30年度 文化財保護事業

入館無料

御前崎市指定有形文化財

本間家文書展

今年度、所有者のご厚意により御前崎市教育委員会に本間家の文書や系図など67点が寄託されたことから、御前崎市指定有形文化財・本間家文書の展示を開催します。

本間家文書は、池新田村(現御前崎市池新田)を立村し、代々池新田村の大庄屋や庄屋を勤めた本間家に伝わる古文書で、本間家の旧知行地小野田村(宮城県)の安堵状などの中世文書、近世の慶長年間池新田村の開発や秣場関係などに関する文書が多数あります。この内、特に重要な15点が御前崎市指定有形文化財に指定されています。

今回の展示は、御前崎市指定有形文化財の古文書15点とともに、未指定の「本間系図」や「宮内村池新田村入会絵図」などの資料についても一部を展示し、中世から江戸時代にかけての本間家の歩みや池新田村の歴史について紹介します。

期 間 平成31年3月14日(木)～3月31日(日) 場 所 御前崎市立図書館2階展示室

開 館 火・金曜日:9時～19時 水・木・土・日曜日と祝日:9時～17時

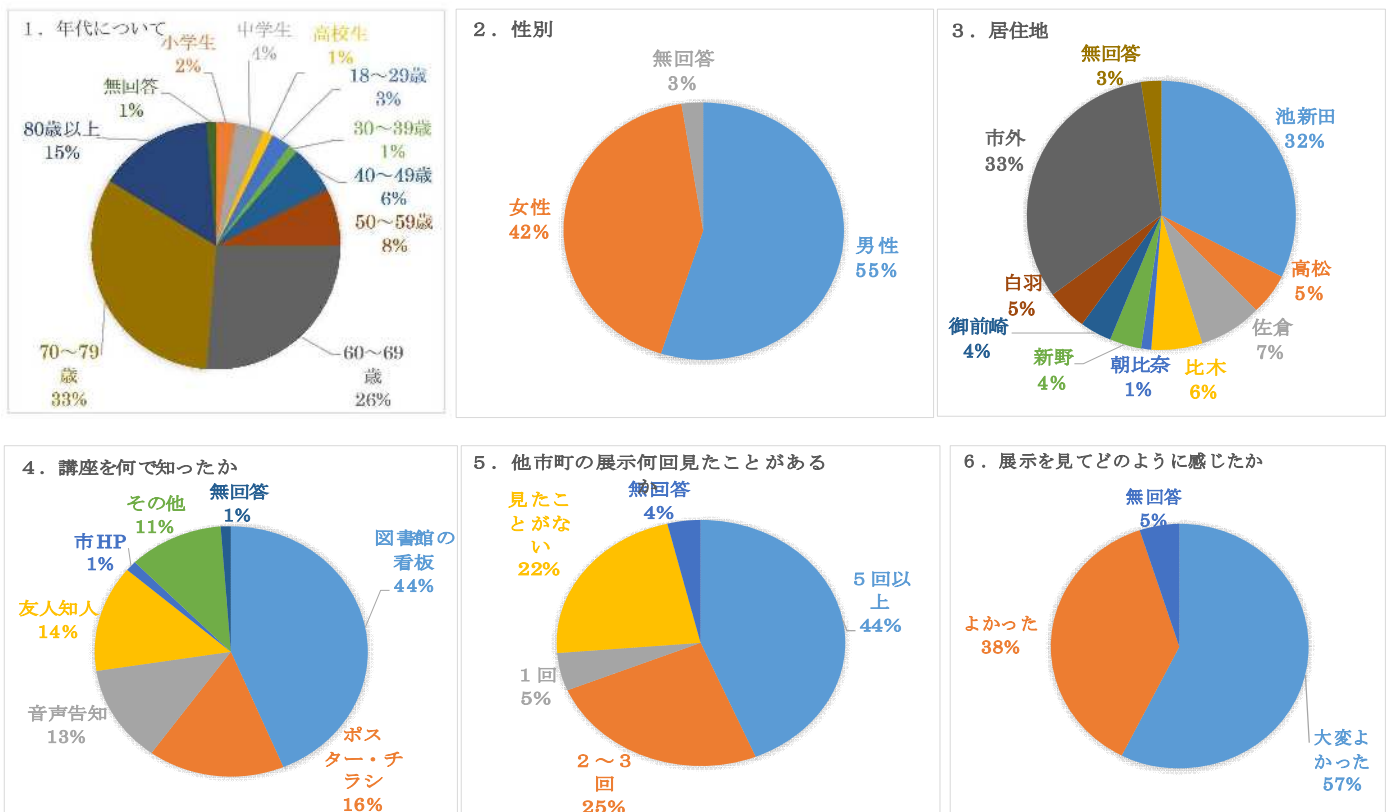
休 館 日 毎週月曜日及び第4木曜日 主 催 御前崎市教育委員会 TEL. 0537-29-8735

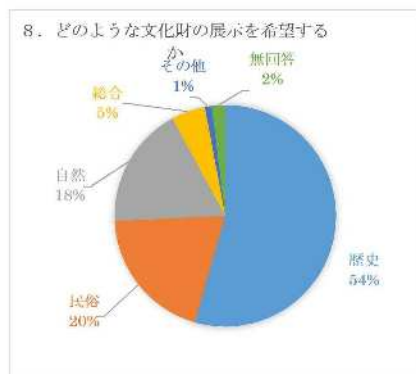
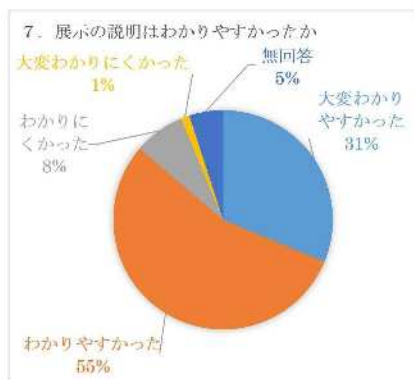
第20図 本間家文書展ポスター

第23表 御前崎市指定有形文化財「本間家文書」の展示資料

No.	表題(内容)	年 代	No.	表題(内容)	年 代
1	徳川家康判物写	元亀2年3月13日 (1571)	9	松平忠次判物	慶長19年正月15日 (1614)
2	武田家朱印状	天正2年7月9日 (1574)	10	安藤帯刀(直次)黒 印状	元和2年8月25日 (1616)
3	武田勝頼判物	天正2年10月晦日 (1574)	11	武藤萬休外五名連 署黒印状	元和3年11月25日 (1617)
4	武田家朱印状	天正2年11月28日 (1574)	12	根沢安兵衛・雨森加 兵衛連署 黒印状	寛永16年9月12日 (1639)
5	小笠原信興朱印状	天正5年12月1日 (1577)	13	松山久兵衛黒印状 (覚)	天和3年5月2日 (1683)
6	大須賀忠政朱印状	慶長10年正月11日 (1605)	14	池新田宮内入会権 論書	正徳3年8月13日 (1713)
7	久世広宣外三名連署掟 (池新田置目之事)	慶長12年正月11日 (1607)	15	差上申論口証文之 事	文化5年7月21日 (1808)
8	大須賀五郎兵衛忠次朱印 状 (新野池新田之事)	慶長14年正月25日 (1609)			

②アンケート集計結果表





9. 企画展の感想(アンケートの記載内容をそのまま掲載している)

- ・池新田の村を開拓した人は本間・丸尾。両氏であることは知っていたが、具体的な文章を見るのは始めて。大変参考になった。
- ・本間家の先祖が源氏からということがすごい。
- ・他家の伝来物を一か所に集めて大切に保存するべきだ。
- ・解説も丁寧でよかった。
- ・逐次、他の資料も展示していただくと有難い。
- ・今現在御前崎市の成立の本を借りていますので、とても興味があり見せてもらいました。
- ・こんなにたくさんの歴史的なものがあるとは知りませんでした。歴史大好きなのでもっと歴史的な展示物をおいてほしいです。ありがとうございました。
- ・松平さんとか徳川さんとか有名人が来ていたことを知りませんでした。明治ぐらいの展示会をやってくれと嬉しいです。ありがとうございました。
- ・絵図がよかった。
- ・池新田と本間家の縁を知ることができ勉強になりました。これからも市の文化財を分かり易く市民にPRしてください。次の企画を楽しみにしています。
- ・レジメを本にまとめてほしい。
- ・池新田の池の大きさがわかれば展示していただきたかった。
- ・父の実家のことを知らなかったので詳しくわかりよかったです。父が生きていたら…と思いました。
- ・いろんな文化がわかった。
- ・とても丁寧に保存・展示していただきましてありがとうございました。
- ・今の家の裏に本間様丸尾様のお墓があり、以前徳川のおちうどがこの近くに住むようになったこと、又渡し船等もあって美しい所だったと聞いたことがありました。だいぶ前近所の子供さんが学校の先生とそういったことを調べていると尋ねられたことがあったのでとても興味深く見させていただくことができました。昔の歴史とたどっていくことはとても興味深いです。
- ・本間家ゆかりの地図が現在の場所と比べられて面白かったです。
- ・本間丸尾兄弟については高天神の攻防戦の2内の要を守り抜いた武将として何度も中学生の頃より訪れていました。今は竹藪が増えて戦跡が荒れて残念です。下水神社でわかっていたような気でいましたが、今回の展示物本間文書の拝見して過去現在未来まで大きく関わっている本間丸尾兄弟を強く尊敬しました。話は聞いていたけど図書館の知識より生々しくひびく展示でしたありがとう。
- ・かつて昔の農民の生活がどのようなものか理解できました。また、幼いころジバーに聞いたものも含まれていてなつかしく思った。
- ・現在古文書を勉強しています。(7年間) 本物をより多く見たいので来ました。

- ・目が悪いのか説明文の字が小さめな個所もあると思った。これだけの古文書は当地方でも少ない今まで良く保存されていたと思う。寄贈され教育委員会で保存されれば今後も安心。
- ・本間家にゆかりのある榛原郡坂部に生れ始めて当地でルーツも解り有難く思います。
- ・隣接の千浜にとって大変参考になりました。
- ・フリガナがあった方がわかりやすい。わかりやすい説明書きがあるといい。せっかくだから理解しやすい様にしてほしい。
- ・身近な地区の歴史・返還に触れ、興味が持てた。
- ・今まで本間家を知らなかったけど見学させていただいて知ることが出来ました。ありがとう。
- ・元々大変興味があった事の展示でしたので大変ありがたかったです。
- ・関西より移転して10年になるが、「本間家」という話をよく聞いていたので今回の展示でよく理解できた。池新田とのかかわりの経緯について今後詳しく説明があればと思う。
- ・新野川の苦勞を知った。
- ・代々続く家の「重さ」これから減っていくかも。寂しいね。
- ・教育委員会作成の資料が参考になる。
- ・貴重な戦国期の本間家の文書を見られ図録もあり来てよかったです。
- ・郷土史研究について市において進めてほしい。浜岡町時代の研究体制をとりもどせ、今のようでは情けない。社会教育課奮起せよ。郷土愛は郷土の昔を知ることより。写しをほしい。
- ・判りやすい解説文でした。当地の成り立ちを記録する貴重な文書なので子供達にも学ぶ機会を与えてください。
- ・浜岡の歴史を理解した。
- ・すばらしいの一言です。冊子などできるといいですが有料でいい。
- ・今回のような文書があることが面白かった。配布されたパンフのような解説が展示された資料の横にあるといいと思った。古地図は現在の地図と少しずれているので今の地図でどの位置になるのかわかると思います。字は大きめにしてくださいと嬉しいです。
- ・貴重資料をよくぞ展示くださいました。大変だったかと思いました。収納もまた。ありがとうございます。かつての方々に話をお聞きしたい気になりました。タイムリーの開墾ミュージカルに興味あります。
- ・これらの文書や出土品など常設できる資料館があると非常に助かります。
- ・小さいころから本間家が歴史あるとは聞いていたが知らなかったので今日見て少しわかった。
- ・池新田村の歴史がよく分かった。古文書は難しいです。
- ・歴史の関係するものをみれて興味深いと感じました。自然の系統も気になるので期待！それと関係しているかわかりませんが、アスパルさん、いつも心地よい環境を提供して下さりありがとうございます。おかげでたのしく読書、勉強ができました。また、帰ってきたときに寄りたいです。アスパル大好きです。
- ・大変すばらしい文書を見て感動致しました。ありがとうございます。



1 展示室全景



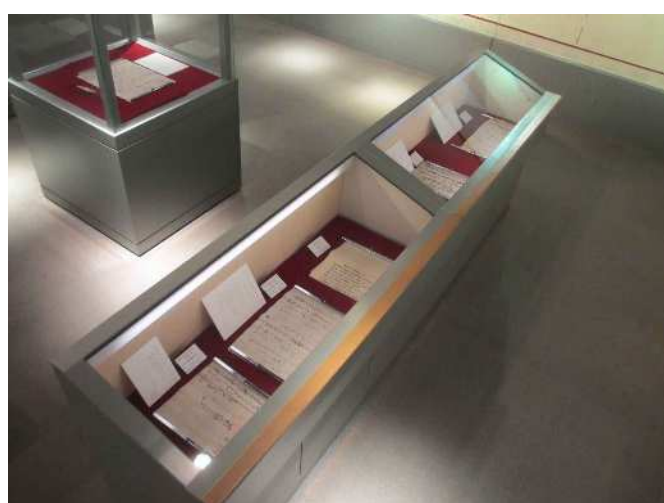
2 中世以前の本間氏関係の写真・解説パネル



3 中世以前の本間氏関係文書(文書 No.1~4)



4 池新田村開発関係の写真・解説パネル



5 中世以前の本間氏・池新田村開発関係文書
(文書 No.5・6・9・10 論済状)



6 秣場の争い関係絵図(本間家所蔵)
※展示した絵図の内、2は複製を展示

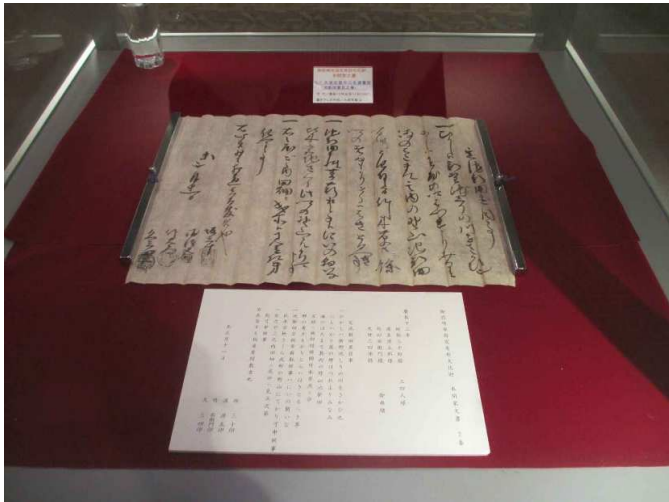
写真 32 御前崎市指定有形文化財 本間家文書展 1



1 本間系図(本間家所蔵)明治時代



2 秣場の争い関係文書(文書 No. 7)



3 秣場の争い関係文書(文書 No. 7)



4 秣場の争い関係の写真・解説パネル1



5 秣場の争い関係文書(文書 No. 8・11~13)

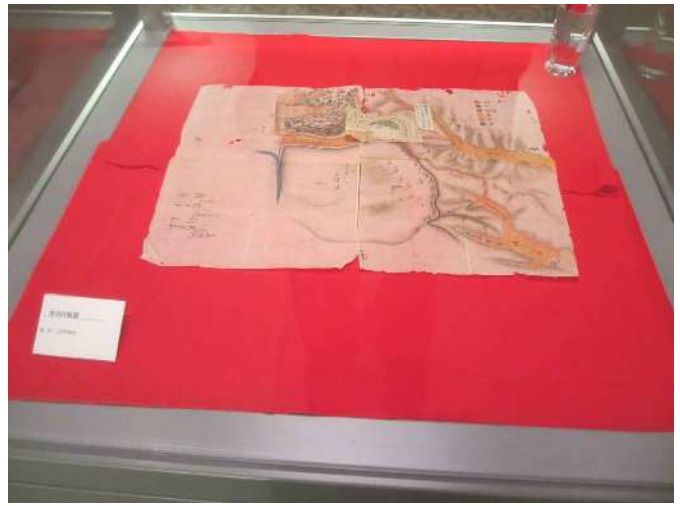


6 秣場の争い関係の写真・解説パネル2

写真 33 御前崎市指定有形文化財 本間家文書展 2



1 秣場の争い関係文書(No.14・15)



2 宮内村絵図



3 高天神戦史・本間家ゆかの地航空写真・位置図



4 本間家文書一覧表・ゆかりの地位置図・航空写真



5 本間家文書一覧表



6 本間家ゆかりの地位置



7 本間家ゆかりの地航空写真

写真 34 御前崎市指定有形文化財 本間家文書展 3

6 写真資料の利用

(1) 新谷地区防災委員の写真資料利用一覧

写 真 資 料 名	枚数	利 用 目 的	利用許可日
○新谷遺跡出土 弥生土器写真	1点	新谷地区防災マップ作成のために利用	平成30年7月4日

(2) 文化庁伝統文化課職員の写真利用資料一覧

写 真 資 料 名	枚数	利 用 目 的	利用許可日
○県指定無形民俗文化財「桜ヶ池のお櫃納め」のお櫃写真	1点	『講座 日本の食文化2』の原稿「赤飯とぼた餅」に掲載するために利用。	平成30年9月30日

(3) 御前崎市教育委員会学校教育課の写真利用資料一覧

写 真 資 料 名	枚数	利 用 目 的	利用許可日
○終戦直後の浜岡 ○連なる砂丘	2点	市内小学校の社会科において活用する副読本の資料とするために利用	平成30年11月5日

7 歴史民俗資料等の特別利用

(1) 御前崎市役所総務課の特別利用資料一覧

歴史民俗資料名	点数	利 用 目 的	利用区分	利 用 日
○戦時中の様子が分かるもの(慰問袋、たすき、新聞など)	複数点	広報おまえざき8月号で企画している戦争特集に掲載するため、写真撮影を行う。	その他	平成30年7月24日

8 歴史民俗資料等の貸出し

(1) 御前崎市立浜岡北小学校への貸出資料一覧

貸 出 資 料 名	点数	所 有 者	貸 出 期 間
旧朝比奈小学校の青い目の人形	1点	御前崎市教育委員会	平成30年4月13日～ 平成30年4月24日
旧朝比奈小学校の青い目の人形	1点	御前崎市教育委員会	平成31年3月15日～ 平成31年3月22日

(2) 水神公園どんどの会への貸出資料一覧

貸出資料名	点数	所有者	貸出期間
○農業用扇風機	1点	御前崎市教育委員会	平成30年11月26日～30日
○足踏式脱穀機	1点	御前崎市教育委員会	平成30年11月26日～30日
	1点	御前崎市教育委員会	平成30年11月26日～30日
○千歯扱き	1点	御前崎市教育委員会	平成30年11月26日～30日

貸出資料名	点数	出土地及び使用地	貸出期間
陶器(四耳壺)	1点	比木殿ノ山	平成30年4月1日～平成31年3月31日
須恵器(長頸壺)	1点	石田横穴群	平成30年4月1日～平成31年3月31日
須恵器(平瓶)	1点	実際寺横穴群	平成30年4月1日～平成31年3月31日
風呂鍬	1点		平成30年4月1日～平成31年3月31日
麦蒔き機	1点	合戸	平成30年4月1日～平成31年3月31日
水田除草機	1点		平成30年4月1日～平成31年3月31日
唐箕	1点		平成30年4月1日～平成31年3月31日
背負子	1点	新野	平成30年4月1日～平成31年3月31日
蓑	1点		平成30年4月1日～平成31年3月31日
菅笠	1点		平成30年4月1日～平成31年3月31日
藁草履	1点		平成30年4月1日～平成31年3月31日
消防用手押消火ポンプ	1点	佐倉	平成30年4月1日～平成31年3月31日
竜吐水師	1点	佐倉	平成30年4月1日～平成31年3月31日
消防団法被	1点	佐倉	平成30年4月1日～平成31年3月31日
纏	1点	佐倉	平成30年4月1日～平成31年3月31日
ランプ	1点		平成30年4月1日～平成31年3月31日
電話機	1点		平成30年4月1日～平成31年3月31日
蓄音機	1点		平成30年4月1日～平成31年3月31日
合 計	18点		

IV 指定文化財一覧表

1 国指定文化財

No.	種別	名称	所在地	所有者	指定年月日
1	天然記念物	白羽の風蝕礫産地	白羽6852-1他	御前崎市 他	S18. 8. 24
2	天然記念物	御前崎のウミガメ及びその産卵地	御前崎海岸	国	S55. 3. 6

2 県指定文化財

No.	種別	名称	所在地	所有者	指定年月日	指定番号
1	名勝	桜ヶ池	佐倉5162	池宮神社	S29. 1. 30	第34号
2	彫刻	木造十一面観音立像(1軀)	御前崎4434	海福寺	S31. 10. 17	第118号
3	無形民俗文化財	桜ヶ池のお櫃納め	佐倉5162	お櫃納め保存会	S61. 12. 5	第538号
4	天然記念物	比木賀茂神社の社叢	比木2815	賀茂神社	H 9. 3. 17	第599号

3 市指定文化財

No.	種別	名称	所在地	所有者	指定年月日	指定番号
1	建造物	白羽神社本殿(人母屋造)	白羽3511	白羽神社	S44. 6. 25	第1号
2	建造物	駒形神社本殿(人母屋造)	御前崎937-1	駒形神社	S44. 6. 25	第2号
3	史跡	星の糞遺跡(823㎡)	白羽2179-1他2筆	加藤英男他2名	S44. 6. 25	第3号
4	古文書	武田家朱印状(3通)	白羽3511	白羽神社	S45. 10. 15	第4号
5	彫刻	地藏菩薩尊像(青銅製立像1軀)	白羽3105-1	増船寺	S45. 10. 15	第5号
6	天然記念物	いちょうの木(1本)	御前崎4434	海福寺	S48. 10. 18	第6号
7	彫刻	日光菩薩立像(1軀)・月光菩薩立像(1軀) 薬師如来立像(1軀)・十二神将立像(12軀)	白羽963	紅雲寺	S49. 9. 19	第7号
8	歴史資料	いもじいさんの碑(顕彰碑・宝篋印塔各1基)	御前崎4434	海福寺	S49. 9. 19	第8号
9	古文書	中山家文書(39通)	門屋	中山貞雄	S52. 2. 28	第9号
10	古文書	本間家文書(15通)	池新田5560	本間 周	S52. 2. 28	第10号
11	史跡	薩田ヶ谷横穴群	宮内1047-18	山本雅己	S53. 9. 4	第11号
12	建造物	旧妙音庵薬師堂(附:薬師三尊・十二神将)	下朝比奈1739	旧妙音庵薬師堂 保存会	S62. 10. 28	第12号
13	建造物	池宮神社本殿	佐倉5162	池宮神社	H 2. 5. 17	第13号
14	天然記念物	イスノキ群生林(十数本)	白羽	滝 朝夫	H 3. 11. 20	第14号
15	絵画	千羽の鶴(1点)	御前崎937-1	駒形神社	H 6. 1. 31	第16号
16	天然記念物	マキの木(1本)	白羽3511	白羽神社	H 6. 1. 31	第17号
17	彫刻	玄翁堂の木造十一面観音菩薩像 (立像1軀・座像1軀)	上朝比奈1030-2	玄翁堂の木造十一 面観音菩薩保存会	H10. 3. 27	第18号
18	彫刻	大日寺の大日如来座像(1軀)	下朝比奈605	大日寺大日如来 保存会	H10. 3. 27	第19号
19	古文書	水野家文書(1通)	池新田5560	水野信幸	H10. 3. 27	第20号
20	歴史資料	御用提灯と収納箱(4点)	池新田5560	御前崎市	H11. 12. 1	第21号
21	有形民俗文化財	石造十一面観音菩薩像(附:石造三十三観音像)	御前崎5067-1	増船寺	H17. 1. 1	第22号
22	建造物	高松神社本殿(人母屋造)	門屋2068	高松神社	H19. 9. 25	第23号
23	歴史資料	旧朝比奈小学校の青い目の人形 (附:マーベル・ワレンの切符)	池新田5560	御前崎市教育委員会	H20. 12. 19 附:H26. 5. 26	第24号
24	彫刻	岩地正八幡神社神像	下朝比奈239-2	岩地正八幡神社 保存会	H27. 12. 25	第25号
25	建造物	岩地正八幡神社本殿	下朝比奈239-2	岩地正八幡神社 保存会	H27. 12. 25	第26号
26	書跡	徳川慶喜揮毫の池宮神社扁額	佐倉5162	池宮神社	H28. 11. 25	第27号

V 文化財関係刊行図書一覧

1 旧御前崎町文化財関係図書

発行年度	刊行図書名	発行年度	刊行図書名
昭和45年度	『郷土のかおり 年中行事と習俗』	平成13年度	『おまえぎきの文化財』
昭和61年度	『ふるさとの岬』	—	アカウミガメ上陸・産卵・孵化状況報告書
平成8年度	静岡県御前崎町『星の墓遺跡発掘調査報告書』		

2 旧浜岡町文化財関係図書

発行年度	刊行図書名	発行年度	刊行図書名
昭和60年度	『石田・蓮前支群発掘調査報告書』	平成11年度	静岡県小笠郡浜岡町『文化財年報Ⅰ』
昭和63年度	『門屋横穴群石田2号横穴・新井平横穴群発掘調査報告書』	平成11年度	『日で見える 浜岡の文化財』
昭和63年度	『浜岡町文化財』	平成12年度	浜岡町埋蔵文化財調査報告書第7集『比木城山遺跡』
平成8年度	浜岡町埋蔵文化財調査報告書第4集『中尾殿之谷横穴群』	平成12年度	浜岡町埋蔵文化財調査報告書第8集『南谷遺跡 遺物編Ⅰ(木製品図版編)』
平成9年度	『郷土の歴史と沿革 浜岡人物誌 池新田・高松編』	平成12年度	静岡県小笠郡浜岡町『文化財年報Ⅱ』
平成9年度	『静岡県指定天然記念物 比木賀茂神社社叢 比木自然公園自然生態系基本調査報告書』	平成13年度	浜岡町埋蔵文化財調査報告書第9集『南谷遺跡 遺物編2(木製品本文・石器・骨角製品)』
平成9年度	浜岡町埋蔵文化財調査報告書第5集『南谷横穴群』	平成13年度	静岡県小笠郡浜岡町『文化財年報Ⅲ』
平成10年度	浜岡町埋蔵文化財調査報告書第6集『山田遺跡』	平成14年度	浜岡町埋蔵文化財調査報告書第10集『南谷遺跡 遺物編』
平成10年度	浜岡町佐倉地区民俗調査報告書『「桜ヶ池のお櫃納め」と佐倉の民俗』	平成15年度	浜岡町埋蔵文化財調査報告書第11集『南谷遺跡 遺物編Ⅲ(土器・土製品)』

3 御前崎町史編さん関係図書

発行年度	刊行図書名	発行年度	刊行図書名
平成2年度	『御前崎町史 資料編』	平成4年度	『御前崎町史 写真集』
平成2年度	『御前崎町史 資料編(近世一)』	平成8年度	『御前崎町史(通史編)』

4 浜岡町史編さん関係図書

発行年度	刊行図書名	発行年度	刊行図書名
昭和50年度	『浜岡町史』	平成15年度	『桜井家(旧比木村川崎谷)文書』一近世一
平成12年度	『浜岡町所在文書日録 第1集』	平成16年度	浜岡町史別冊四『証言集 町民が語る近現代の歩み』
平成12年度	浜岡町史別冊一『萩原佐吉 茶業見聞録・新道開鑿日記』	平成17年度	『浜岡町史 資料編(考古)』
平成13年度	浜岡町史別冊二『佐倉村誌・朝比奈村郷土誌』	平成17年度	『浜岡町史 資料編(古代・中世)』
平成14年度	浜岡町史別冊三『新野村誌・池新田村誌』	平成17年度	浜岡町史別冊五『中世埋蔵銭と古墳時代の横穴・古墳』
平成15年度	『風紋—浜岡町・開町記念写真集—』	平成22年度	『浜岡町史 通史編』
平成15年度	『浜岡町史 民俗編』		

5 御前崎市文化財関係図書

発行年度	刊行図書名	発行年度	刊行図書名
平成16年度	御前崎市埋蔵文化財調査報告書第1集『比木城山遺跡Ⅱ』	平成21年度	御前崎市埋蔵文化財調査報告書第3集『山田ヶ谷北横穴群』
平成16年度	静岡県御前崎市『文化財年報Ⅰ』平成16年度版	平成22年度	静岡県御前崎市『文化財年報Ⅵ』平成21年度版
平成17年度	御前崎市文化財講座企画展第1弾『新野川流域の文化財』	平成23年度	静岡県御前崎市『文化財年報Ⅶ』平成22年度版
平成17年度	静岡県御前崎市『文化財年報Ⅱ』平成17年度版	平成24年度	静岡県御前崎市『文化財年報Ⅷ』平成23年度版
平成18年度	御前崎市文化財講座企画展第2弾『朝比奈川流域と池新田の文化財』	平成25年度	静岡県御前崎市『文化財年報Ⅸ』平成24年度版
平成18年度	御前崎市埋蔵文化財調査報告書第2集『勝差墳墓群』	平成25年度	御前崎市の指定文化財
平成19年度	静岡県御前崎市『文化財年報Ⅲ』平成18年度版	平成26年度	静岡県御前崎市『文化財年報Ⅹ』平成25年度版
平成19年度	御前崎市文化財講座企画展第3弾『碓川流域の文化財』	平成26年度	御前崎指定史跡『薩田ヶ谷横穴群』パンフレット
平成20年度	静岡県御前崎市『文化財年報Ⅳ』平成19年度版	平成27年度	静岡県御前崎市『文化財年報ⅩⅠ』平成26年度版
平成20年度	御前崎市文化財講座企画展第4弾『大原川・中西川流域と御前崎の文化財』	平成28年度	静岡県御前崎市『文化財年報ⅩⅡ』平成27年度版
平成21年度	静岡県御前崎市『文化財年報Ⅴ』平成20年度版		

静岡県御前崎市
文化財年報X V

令和2年 5月20日

編集 静岡県御前崎市教育委員会
〒437-1692 静岡県御前崎市池新田 5585
TEL 0537-29-8735
FAX 0537-29-8737